

北海道ギャンブル等依存症実態調査

【結果報告書（案）】

令和元年10月

北海道保健福祉部福祉局障がい者保健福祉課

実態調査の趣旨

道では、ギャンブル等依存症対策基本法（平成30年法律第74号）に基づく、道のギャンブル等依存症対策推進計画の策定に向け、有識者等で構成する推進会議を設置し、協議・検討を進めている。

この度、推進計画を策定するにあたり、道内の精神科標榜医療機関及び相談機関等に対してギャンブル等依存症に係る対応状況等を調査し、ギャンブル等により生じている問題等の実態を把握し、道の推進計画の策定や今後の依存症対策の検討に資するため実施したものの。

目次

1 調査概要.....	2
2 調査結果.....	4
(1) 医療機関	4
(2) 相談機関	14
(3) GA等（当事者）	21
※GAとは、ギャンブル等依存症である者等本人の集まりであるギャンブラーズ・アノニマスの略称。	
(4) ギャマノン（家族等）	28
※ギャンブル等依存症である者等の家族等の集まり。	

1 調査概要

①調査目的	道内の精神科標榜医療機関及び相談機関等に対して、ギャンブル等依存症に係る対応状況等を調査し、ギャンブル等により生じている問題等の実態を把握し、道の推進計画の策定や今後の依存症対策の検討に資するために実施する。																																																										
②調査施設数及び回答数	<p>2 調査施設等【1,220 施設】</p> <p>①精神科標榜医療機関【357】、内回答数【235】、回答率【65.8%】</p> <p>②相談機関【833】、内回答数【617】、回答率【74.1%】</p> <p>③当事者団体等（GA、ギャマン等）【配布部数 198 部】、内回答数【70】、回答率【35.4%】</p> <table border="1" data-bbox="344 483 1481 1249"> <thead> <tr> <th>施設名</th> <th>施設数</th> <th>回答数</th> <th>施設名</th> <th>施設数</th> <th>回答数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医療機関</td> <td>357</td> <td>235</td> <td>札幌こころのセンター</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>【市町村】 地域包括支援センター 障害者の相談機関 消費生活相談窓口</td> <td>654</td> <td>483</td> <td>いのちの電話相談</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>生活困窮者相談窓口</td> <td>52</td> <td>38</td> <td>北海道立 消費生活センター</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>福祉事務所 (生保相談窓口)</td> <td>68</td> <td>35</td> <td>臨床心理士会</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>地域定着支援センター</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>法テラス</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>女性相談援助センター</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>保護観察所</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>児童相談所</td> <td>9</td> <td>7</td> <td>司法書士会 (司法書士個別回答も含む)</td> <td>4</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>道立保健所及び 保健所設置市</td> <td>29</td> <td>29</td> <td rowspan="2">当事者団体等 (GA、ギャマン等)</td> <td rowspan="2">26 (198部)</td> <td>人数</td> </tr> <tr> <td>道立精神保健福祉 センター</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>GA 等 41 人 ギャマン等 29 人</td> </tr> </tbody> </table>	施設名	施設数	回答数	施設名	施設数	回答数	医療機関	357	235	札幌こころのセンター	1	1	【市町村】 地域包括支援センター 障害者の相談機関 消費生活相談窓口	654	483	いのちの電話相談	2	1	生活困窮者相談窓口	52	38	北海道立 消費生活センター	1	1	福祉事務所 (生保相談窓口)	68	35	臨床心理士会	1	1	地域定着支援センター	2	2	法テラス	4	4	女性相談援助センター	1	1	保護観察所	4	4	児童相談所	9	7	司法書士会 (司法書士個別回答も含む)	4	7	道立保健所及び 保健所設置市	29	29	当事者団体等 (GA、ギャマン等)	26 (198部)	人数	道立精神保健福祉 センター	1	1	GA 等 41 人 ギャマン等 29 人
施設名	施設数	回答数	施設名	施設数	回答数																																																						
医療機関	357	235	札幌こころのセンター	1	1																																																						
【市町村】 地域包括支援センター 障害者の相談機関 消費生活相談窓口	654	483	いのちの電話相談	2	1																																																						
生活困窮者相談窓口	52	38	北海道立 消費生活センター	1	1																																																						
福祉事務所 (生保相談窓口)	68	35	臨床心理士会	1	1																																																						
地域定着支援センター	2	2	法テラス	4	4																																																						
女性相談援助センター	1	1	保護観察所	4	4																																																						
児童相談所	9	7	司法書士会 (司法書士個別回答も含む)	4	7																																																						
道立保健所及び 保健所設置市	29	29	当事者団体等 (GA、ギャマン等)	26 (198部)	人数																																																						
道立精神保健福祉 センター	1	1			GA 等 41 人 ギャマン等 29 人																																																						
③調査方法	アンケート調査（調査票を郵送及びメール配布、郵送及びメール回収）																																																										
④調査期間	<p>○ 医療機関及び相談機関 令和元年7月16日～7月31日</p> <p>○ 当事者団体等 令和元年7月26日～9月13日</p> <p>※ 調査対象期間 平成30年4月1日～平成31年3月31日</p>																																																										
⑤調査項目	<p>○ 医療機関</p> <p>① 依存症に関する年間問合せ件数、②問合せに対する対応状況、③患者数（通院・入院別）[ギャンブル等種別・年齢層毎]、④通院・入院期間、⑤治療途中で医療を中断した方の割合、⑥依存症と診断した場合のその後の対応（フォロー）、⑦依存症と診断した方で他の精神疾患が併存している数、⑧触法行為や自己破産を経験している患者の対応の有無 など</p> <p>○ 相談機関</p> <p>① ギャンブル等問題が関わっていた相談件数 ②相談者（本人・家族別）、③ギャンブル等種別毎、④問題別（多重債務、貧困、虐待、DV、失踪・家出、自殺問題、触法行為）⑤年齢層別、⑥相談があった場合の対応状況、⑦同一案件での相談回数 など</p> <p>○ 当事者団体等</p> <p>①性別、②年齢、③のめり込んだギャンブル等の種別、④治療機関や回復施設利用の有無、⑤団体につながったきっかけ、⑥ギャンブル等にのめり込むことにより陥った状況（多重債務、貧困、虐待、DV、失踪・家出、自殺問題、触法行為）、⑦自分のギャンブル等問題を依存症という病気と思うか、⑧団体につながるまでの期間、⑨団体に通い始めてからの期間、⑩団体に参加している頻度、⑪相談した機関、⑫行政に取り組んでほしいことなど</p>																																																										

調査結果

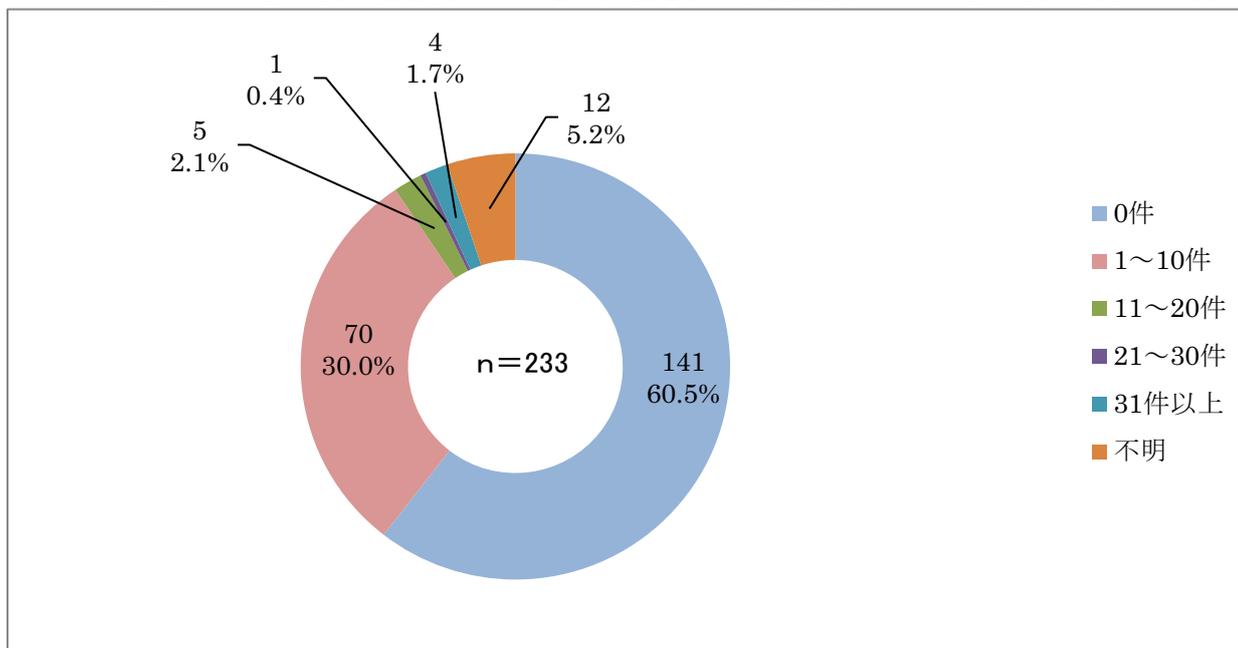
- ・ 実際のアンケートの質問に沿って、項目の集計値、割合、意見等を表記した。
- ・ アンケートでは、無回答もあり、合計と内訳の数値とが一致しない場合がある。

2 調査結果

(1) 医療機関

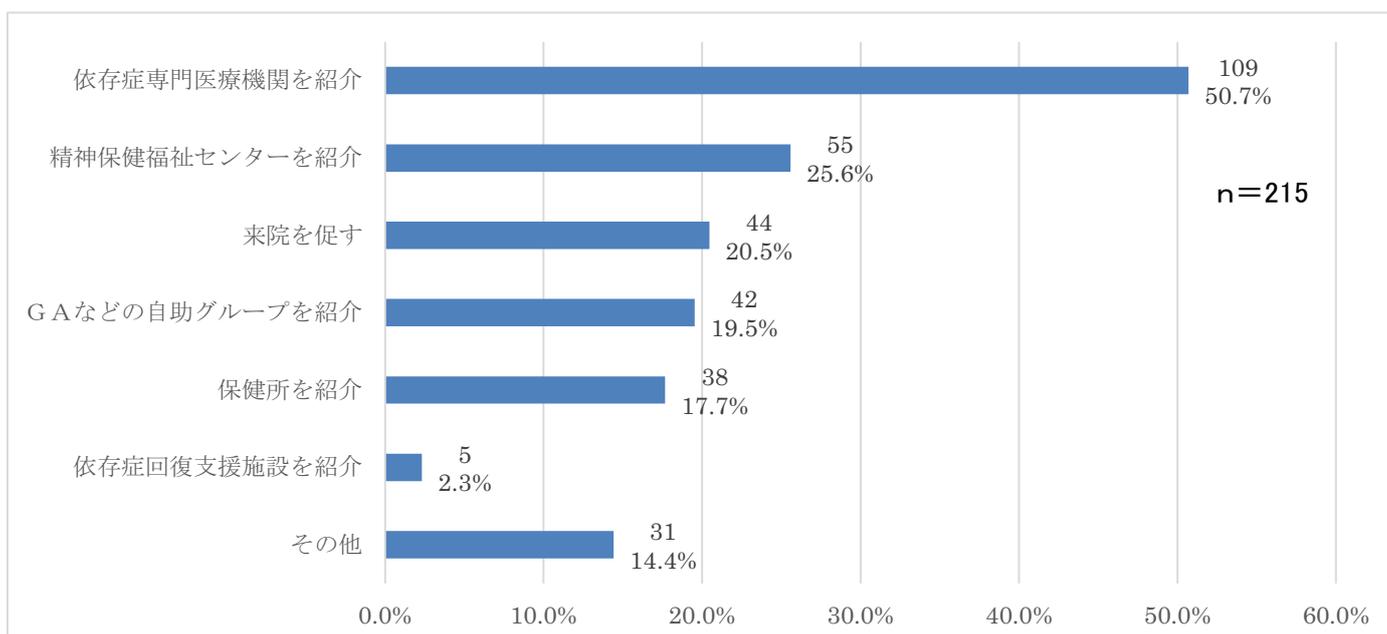
問1 貴院において、ギャンブル等依存症の受診に関する年間問合せ延件数はどの程度ありますか。該当するものに○、正確な件数を把握している場合は、その数値もお願いします。

○ 回答のあった233件のうち、問い合わせがあった医療機関の数は、92機関（39.4%）で、そのうち1～10件が70件と約8割を占めているが、最も多い医療機関では50件の問い合わせがあった。



問2 一般的な対応として、ギャンブル等依存症に関するお問い合わせがあった場合の貴院における対応について、該当する項目に○をつけてください（複数回答可）。

○ お問い合わせがあった場合の主な対応としては、依存症専門医療機関への紹介が最も多く、次いで精神保健福祉センター、来院を促すとなっている。



問3 貴院において、平成30年4月～平成31年3月にギャンブル等依存症で受診等された方に関しお尋ねします。

- (1) 患者数（通院・入院別）及び主要因となったギャンブル等の内訳を記載してください。
また、ネット購入者数もわかる範囲で記載してください。

ア 通院について

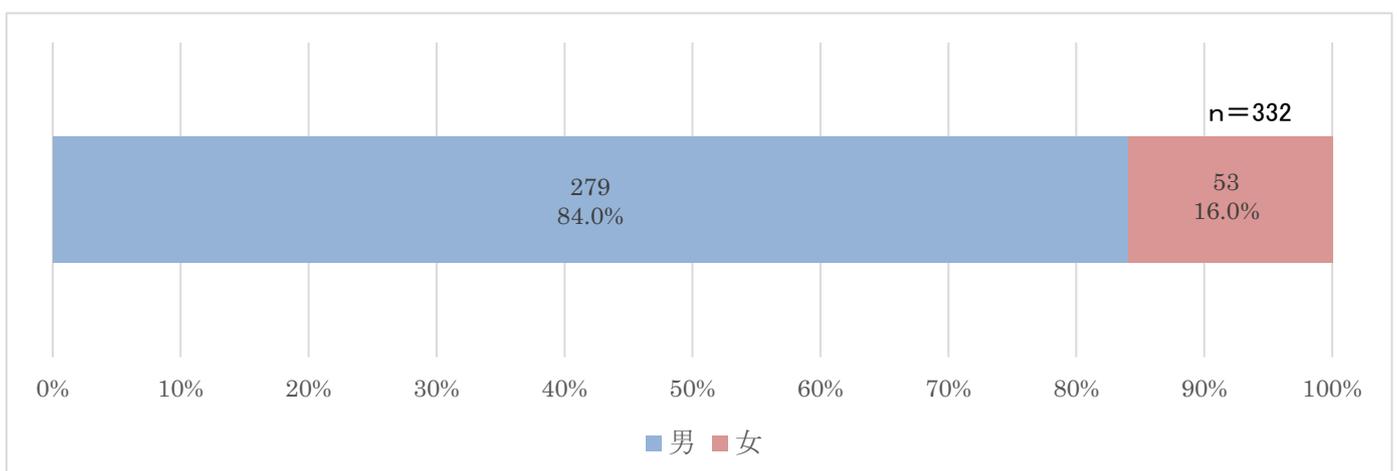
区 分		男 性	女 性	合 計	
①通院患者数（延人数）		4326 人	493 人	4819 人	
②通院患者数（実人数）		279 人	53 人	332 人	
内 年 齢 層	20 歳未満 （うち、ネット購入者）	3 人 (0 人)	0 人 (0 人)	3 人 (0 人)	
	20 代 （うち、ネット購入者）	53 人 (5 人)	5 人 (0 人)	58 人 (5 人)	
	30 代 （うち、ネット購入者）	93 人 (3 人)	10 人 (0 人)	103 人 (3 人)	
	40 代 （うち、ネット購入者）	69 人 (0 人)	13 人 (0 人)	82 人 (0 人)	
	50 代 （うち、ネット購入者）	36 人 (1 人)	12 人 (0 人)	48 人 (1 人)	
	60 代 （うち、ネット購入者）	19 人 (1 人)	7 人 (0 人)	26 人 (1 人)	
	70 歳以上 （うち、ネット購入者）	6 人 (2 人)	6 人 (0 人)	12 人 (2 人)	
	内 主 要 因 の ギ ャ ン ブ ル 等	競馬 （うち、ネット購入者）	42 人 (12 人)	0 人 (0 人)	42 人 (12 人)
		競輪 （うち、ネット購入者）	7 人 (0 人)	0 人 (0 人)	7 人 (0 人)
		オートレース （うち、ネット購入者）	0 人 (0 人)	0 人 (0 人)	0 人 (0 人)
モーターボート （うち、ネット購入者）		0 人 (0 人)	0 人 (0 人)	0 人 (0 人)	
パチンコ・パチスロ		221 人	53 人	274 人	
その他（FX、ゲーム）		9 人	0 人	9 人	

※FXとは、「foreign Exchange」の略で、異なる通貨を売買し、差益を得る行為です。

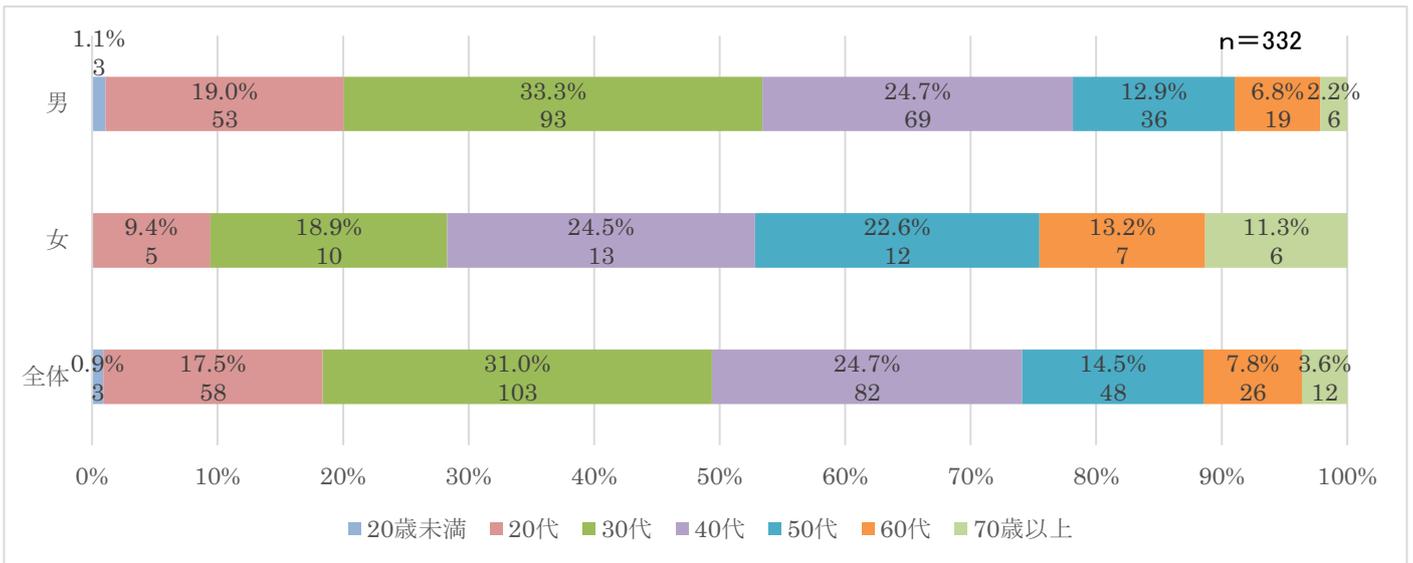
通院患者数（実人数）について

- 通院された方は332人であり、男性が8割以上を占めており、年齢別では、男性は30代が最も多く、女性では、40～50代で約半数となっている。
また、ギャンブル等の種別では、全体でパチンコ・パチスロが約83%で、次いで競馬が約13%となっており、女性については、パチンコ・パチスロが100%となっている。

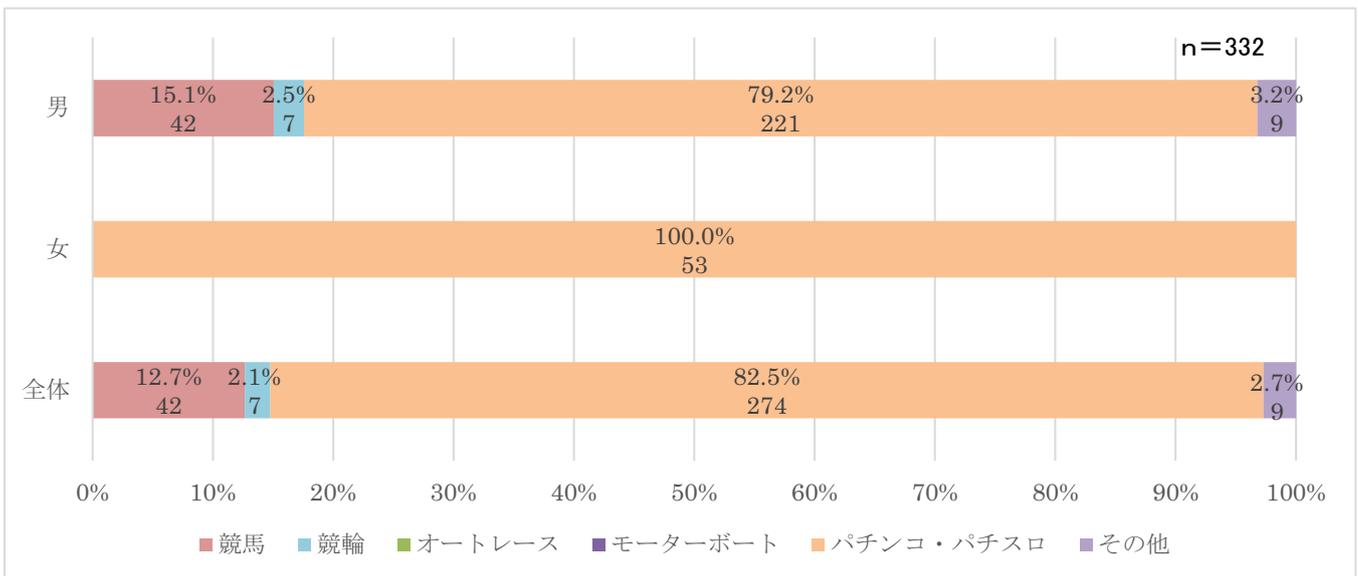
【全体実人数男女比】



【年齢別】



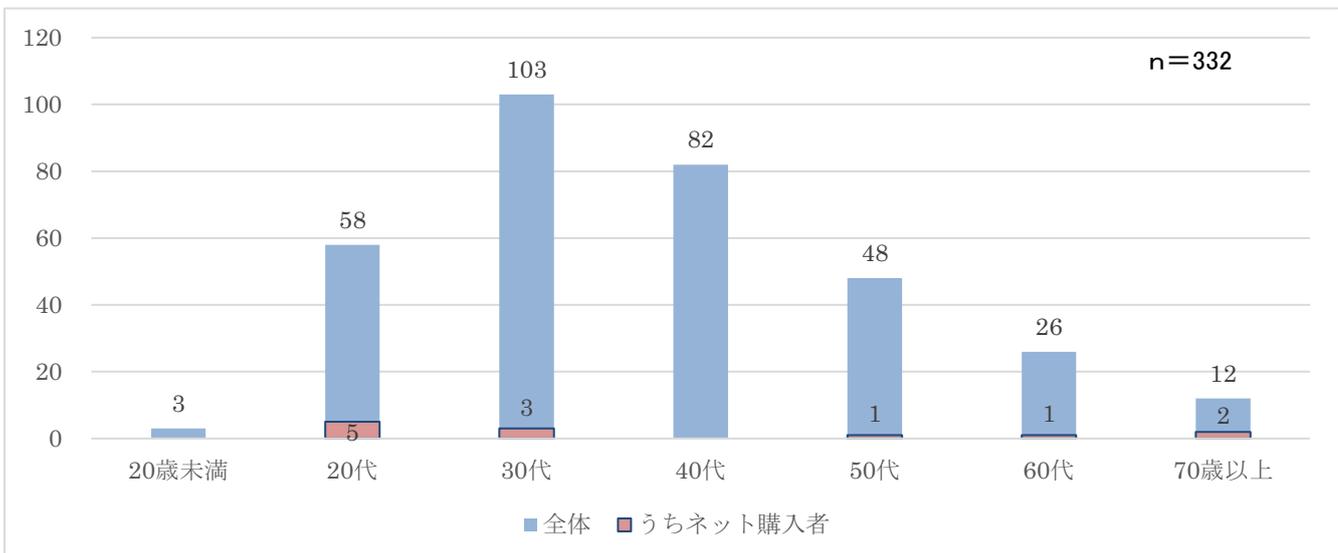
【ギャンブル等の種別】



ネット購入者の年齢層について

○ ネット購入者については、全体の割合は少ないが、年齢層は20～30代が多く、全年齢層に見受けられる。

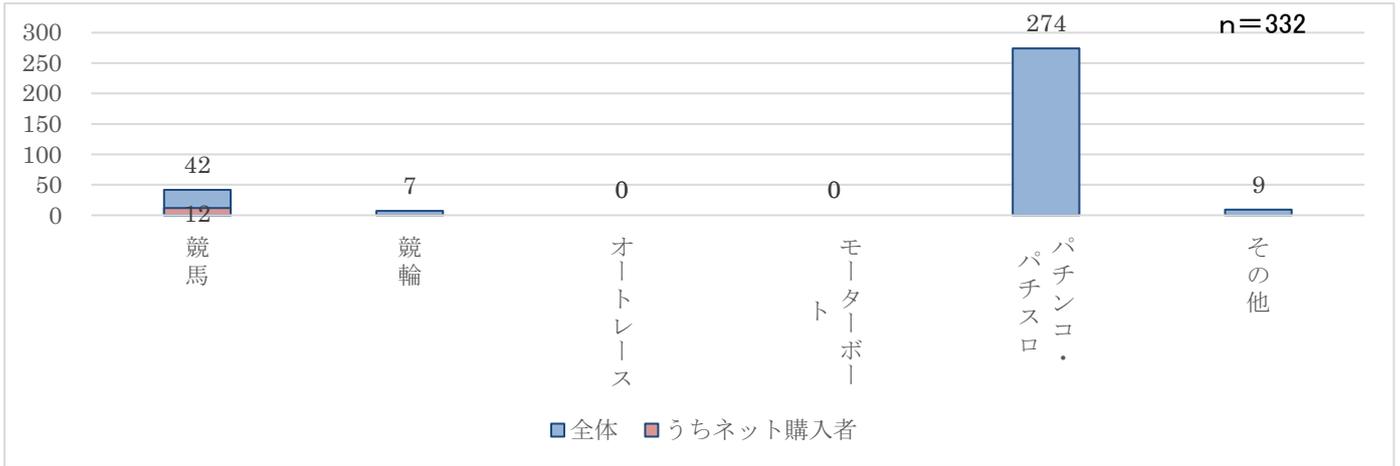
【合計】



ネット購入者のギャンブル等種別について

○ ネット購入者は、競馬のみにおり、割合は約3割と高くなっている。

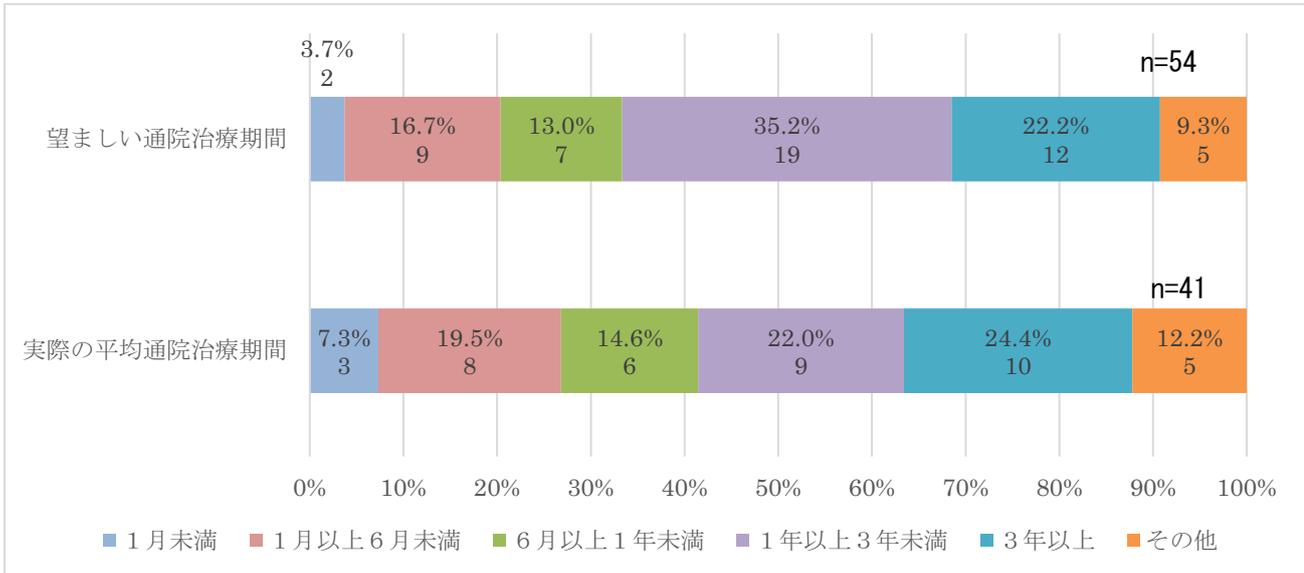
【合計】



③-1 貴院が想定するギャンブル等依存症の治療の望ましい通院治療期間について、最も近いものに1つ○をつけてください。

③-2 貴院がギャンブル等依存症の治療に実際になされた平均的な通院治療期間について、該当するものに1つ○をつけてください。

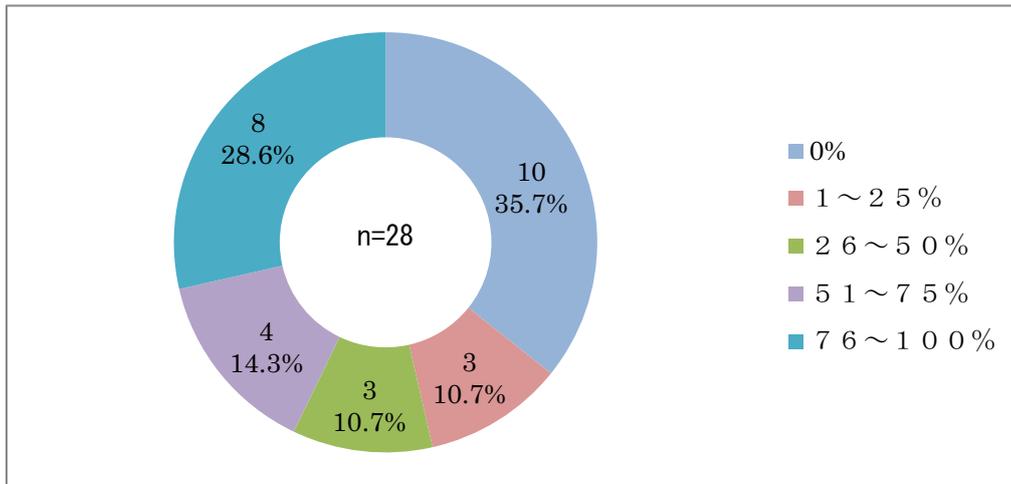
○ 医療機関が想定する望ましい通院治療期間は、回答のあった54件のうち、「1年以上3年未満」が最も多く、次いで「3年以上」となっている。一方、医療機関における実際になされた平均的な通院治療期間は、回答のあった41件のうち、「3年以上」が最も多くなっており、医療機関の想定よりも通院期間が長期化する傾向が見受けられる。



※その他は、「患者による」や「期間を定められない」と回答している

④ ギャンブル等依存症で通院された患者さんの中で、医療を自己中断したと思われる方はどのくらいの割合か記載してください。

○ 通院を自己中断したと思われる方は、回答のあった28件のうち、「自己中断がない」が10件（36%）である一方、自己中断が50%を超える医療機関は12件となっている。



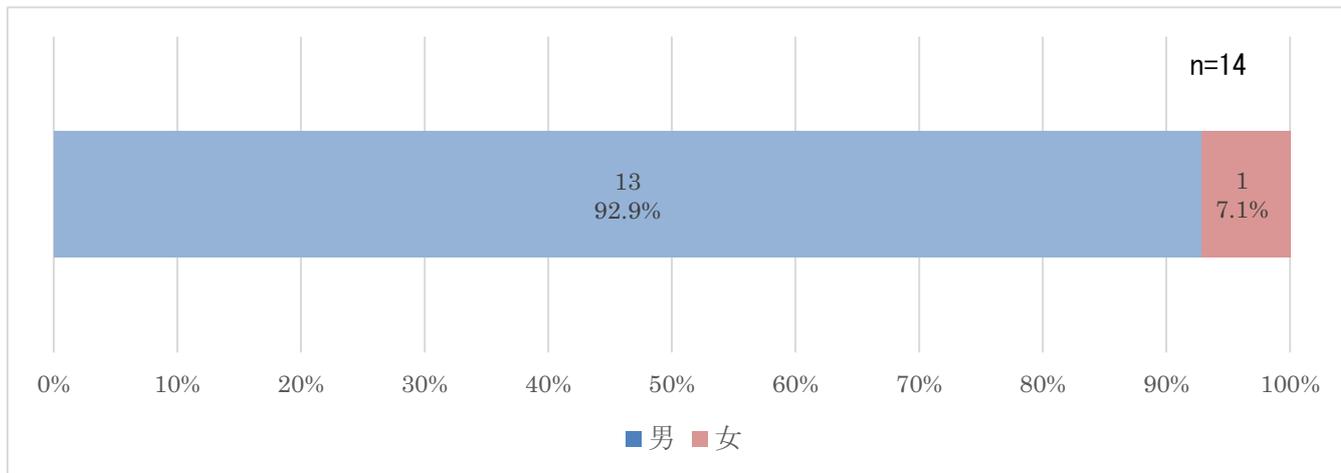
イ 入院について

区 分		男 性	女 性	合 計
①入院患者数（延人数）		13人	1人	14人
②入院患者数（実人数）		13人	1人	14人
内 年 齢 層	20歳未満 （うち、ネット購入者）	1人 (0人)	0人 (0人)	1人 (0人)
	20代 （うち、ネット購入者）	3人 (0人)	0人 (0人)	3人 (0人)
	30代 （うち、ネット購入者）	1人 (0人)	1人 (0人)	2人 (0人)
	40代 （うち、ネット購入者）	4人 (0人)	0人 (0人)	4人 (0人)
	50代 （うち、ネット購入者）	2人 (0人)	0人 (0人)	2人 (0人)
	60代 （うち、ネット購入者）	1人 (0人)	0人 (0人)	1人 (0人)
	70歳以上 （うち、ネット購入者）	1人 (0人)	0人 (0人)	1人 (0人)
記 主 要 因 の ギ ャ ン ブ ル 等	競馬 （うち、ネット購入者）	4人 (0人)	0人 (0人)	4人 (0人)
	競輪 （うち、ネット購入者）	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)
	オートレース （うち、ネット購入者）	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)
	モーターボート （うち、ネット購入者）	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)
	パチンコ・パチスロ	8人	1人	9人
	その他（ゲーム）	1人	0人	1人

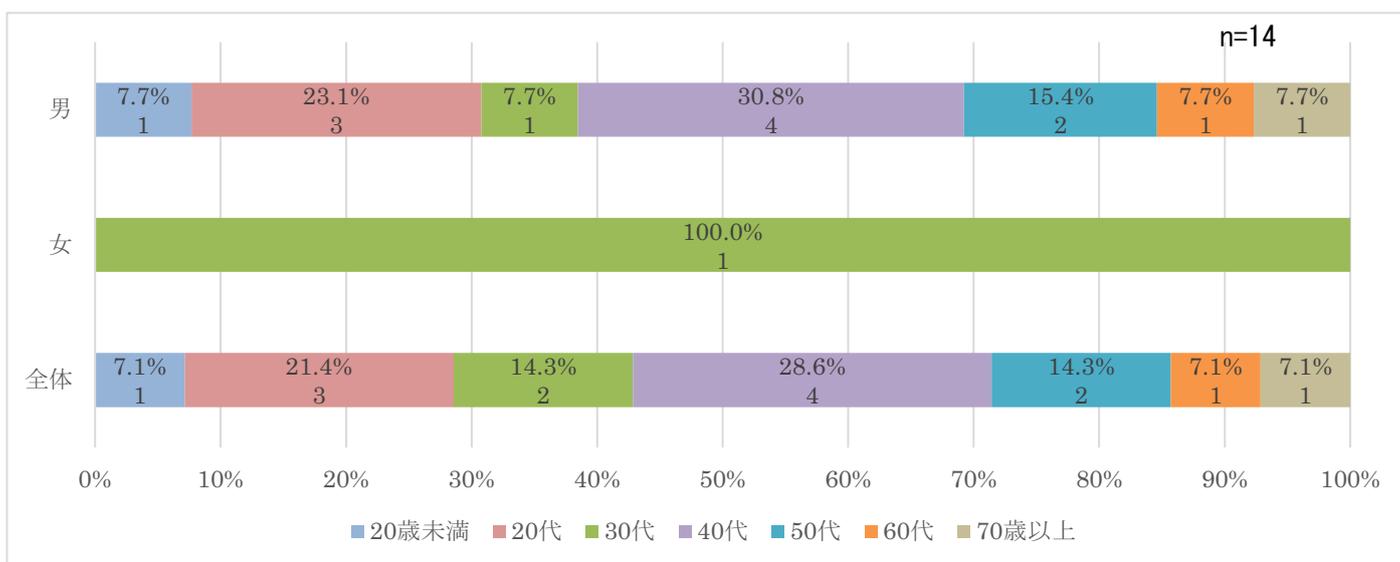
入院患者数（実人数）について

○ 入院された方は、14名であり、うち男性が13名で、全年齢層に見受けられる。また、ギャンブル等の種別では、全体でパチンコ・パチスロが64%で、次いで競馬が29%となっており、女性1名については、パチンコ・パチスロとなっている。

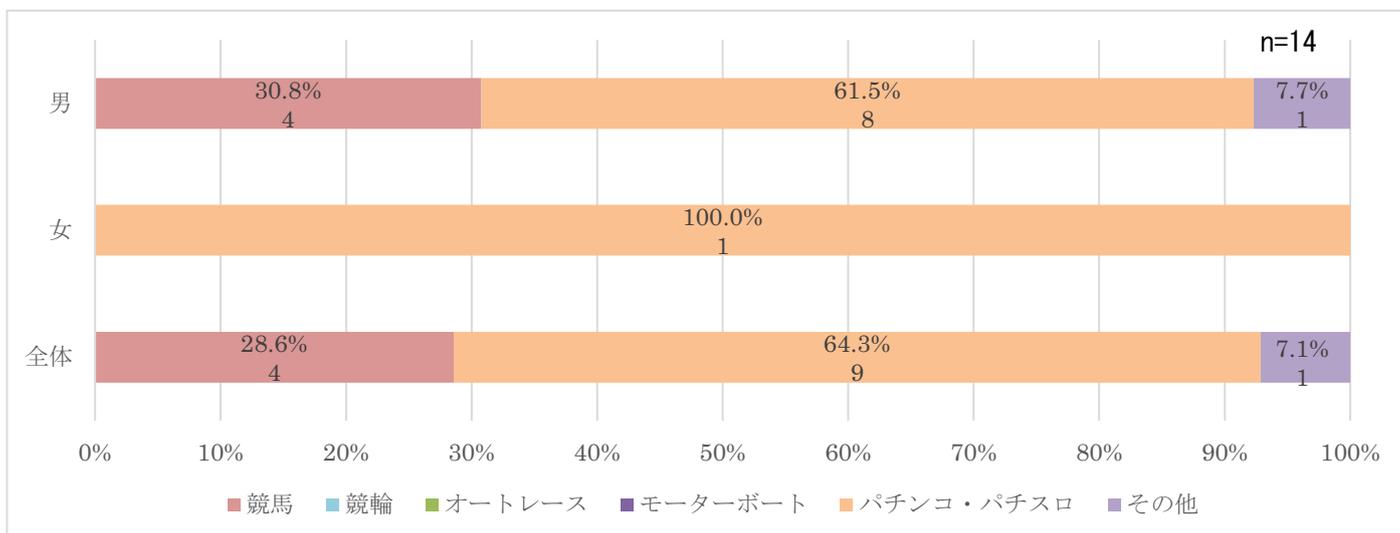
【全体延べ人数男女比】



【年齢別】

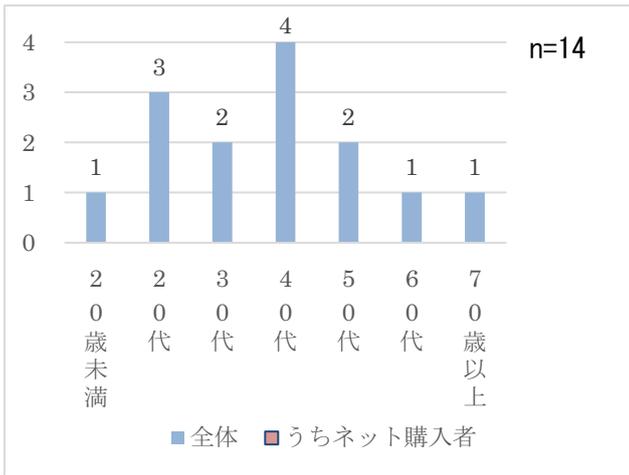


【ギャンブル等の種別】



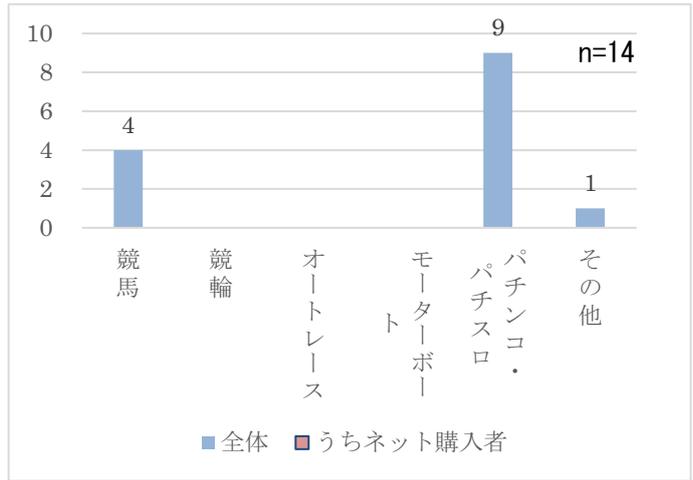
入院患者の年齢層について

【合計】



入院患者のギャンブル等種別について

【合計】

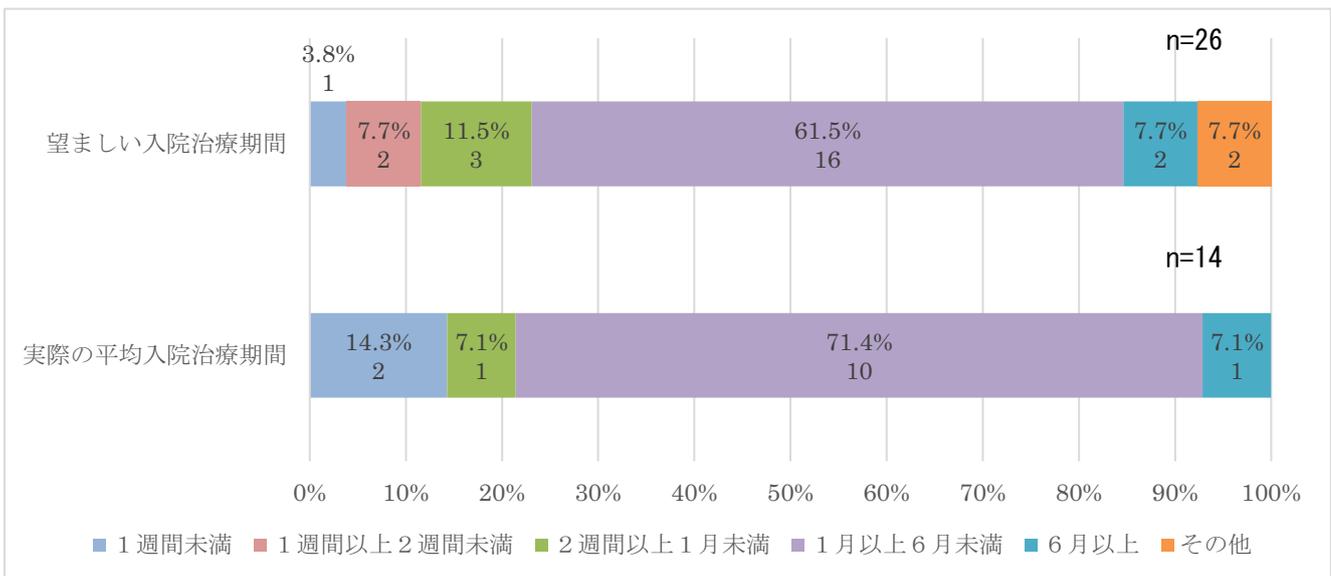


※入院された方で、ネット購入者はいなかった。

③-1 貴院が想定するギャンブル等依存症の治療の望ましい入院治療期間について、最も近いものに1つ○をつけてください。

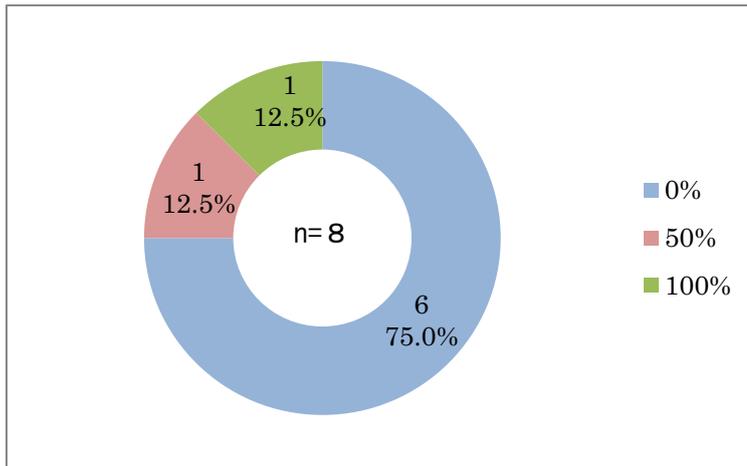
③-2 貴院がギャンブル等依存症の治療に実際になされた平均的な入院治療期間について、該当するものに1つ○をつけてください。

○ 医療機関が想定する望ましい入院治療期間は、回答のあった26件のうち、「1月以上6月未満」が最も多い。一方、医療機関における実際になされた平均的な入院治療期間は、回答のあった14件のうち、「1月以上6月未満」が最も多く、医療機関の想定と実際の入院期間に大きな乖離はない。



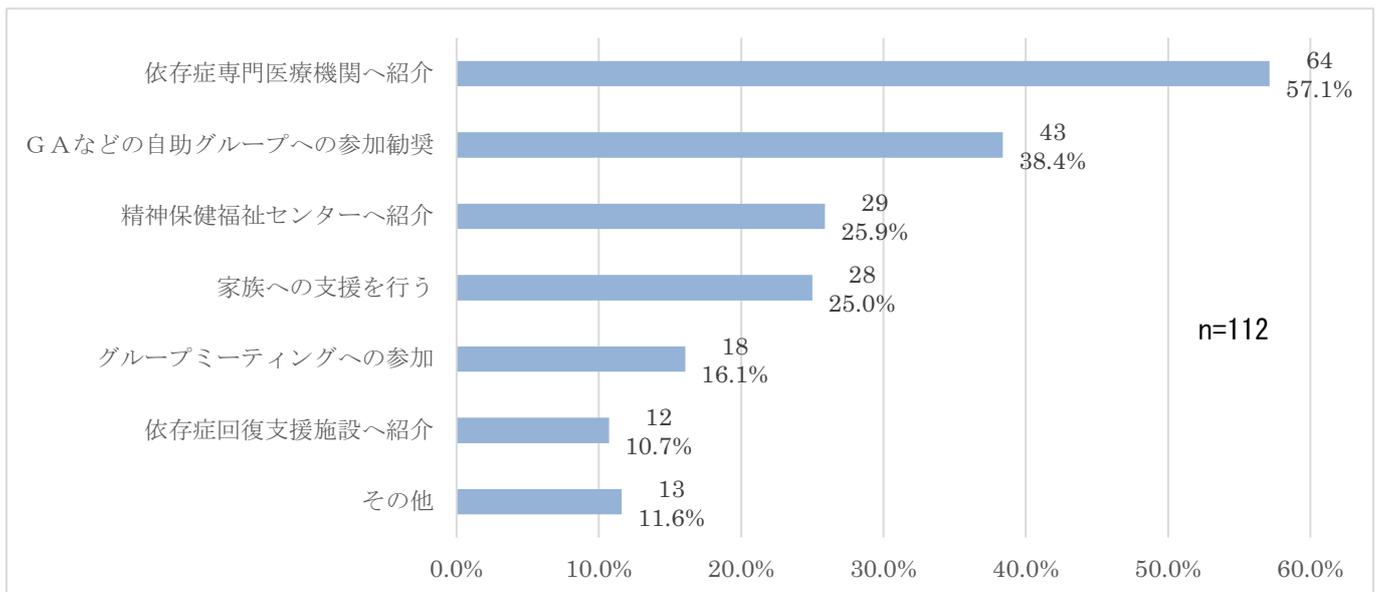
④ ギャンブル等依存症で入院された患者さんの中で、医療を自己中断したと思われる方はどのくらいの割合か記載してください。

○ 入院を自己中断したと思われる方がいたのは、回答のあった8医療機関のうち2医療機関である。



(2) ギャンブル等依存症と診断した場合、その後の主な治療や対応（フォロー）として該当する項目に○をつけてください（複数回答可）。

○ ギャンブル等依存症と診断した場合の、その後の主な治療や対応については、「依存症専門医療機関へ紹介」が最も多く、次いで「GAなどの自助グループへの参加勧奨」「精神保健センターへ紹介」となっている。

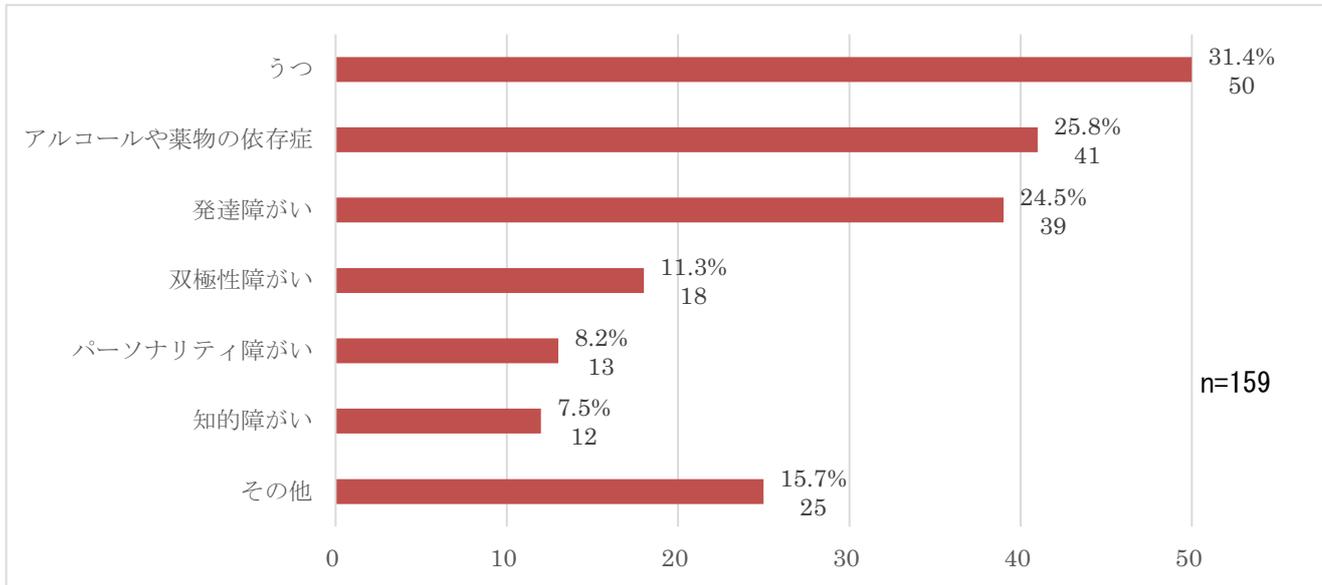


(3) ギャンブル等依存症と診断した方で、併存する精神障がいが見られる事例はありますか。

○ ギャンブル等依存症と診断した方で、他の精神障がいがある併存しているのは159名で、「うつ」が最も多く、次いで「アルコールや薬物依存症」「発達障がい」となっている。
 なお、「その他」では、パニック障害、適応障害などが多い。

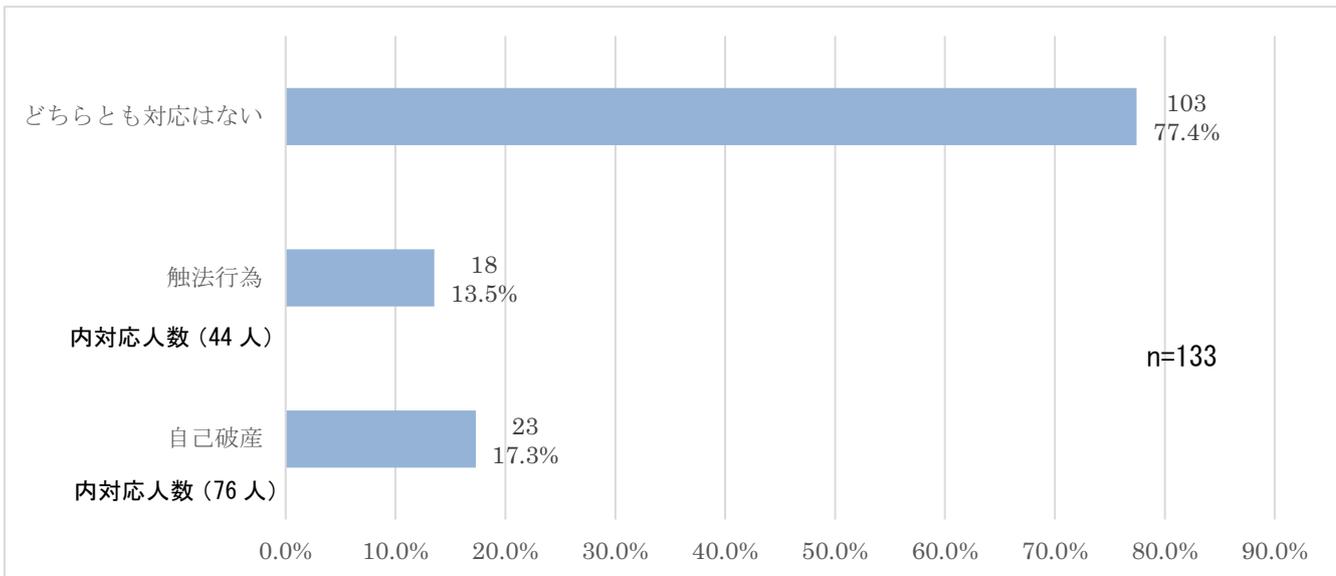
・他の精神障がいがある併存している数
 実数 159人

・併存する精神障がいがある方の障がい種別に該当する人数を記載してください。(複数回答可)



(4) 触法行為や自己破産を経験している患者の対応がありましたら人数を記載してください。(複数回答可)

○ 触法行為や自己破産を経験している患者の対応については、「どちらも対応はない」という医療機関が約8割を占めており、触法行為の対応ありが1割、自己破産の対応ありが2割となっている。



(5) ギャンブル等依存症の治療全般に当たっての課題や困難なことがありましたら記載してください。

- () 特にない 【92】
() ある (ある場合は、その内容を下記に記載ください。) 【42】

・主な意見

- 精神科医として、ギャンブル等依存症の治療トレーニングを受けたことがないので、対応方法が分からない。
- 問題が多く、医師一人の小規模診療所では対応できない。
- 専門的な治療(体制)が必要。
- ギャンブル等依存症の専門治療を行うにあたっての診療報酬面での支えがない。
- 退院支援を行う際の受け皿が少ない。
- アルコール依存以外の依存症について、専門プログラムがなく介入が困難。
- そもそも治療に結びつかない。受診につながっていないと思われる。
- 居住地近郊に専門病院や自助グループがないため、治療の継続が難しい。 など

4 ギャンブル等依存症対策に関するご意見等がありましたら記載ください。

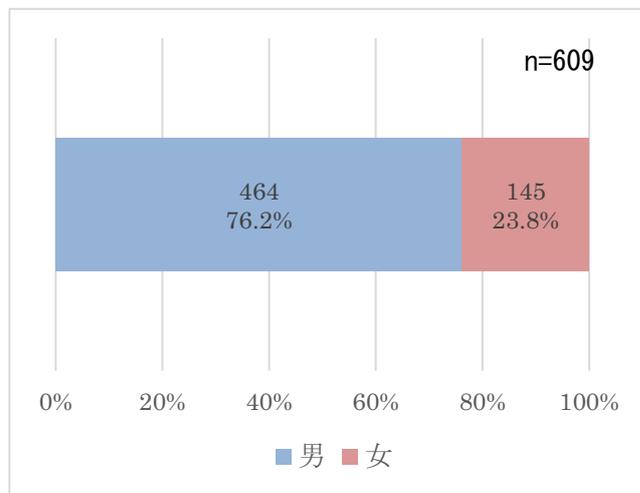
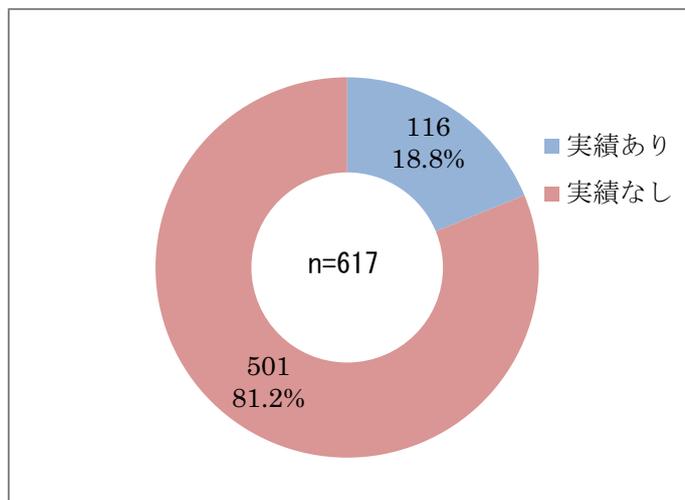
・主な意見

- 専門医療機関または相談窓口のパンフレット等があれば紹介しやすい。
- 相談窓口を広げ、早い段階で本人や家族が相談に来れるのが望ましいです。
- 当院においてもギャンブル等依存症の患者の受け入れ実績ほとんどなく、職員の疾病理解・支援技術も十分とは言えない。ギャンブル等依存症の治療・支援に従事するスタッフの養成も課題であると考える。 など

(2) 相談機関

1(1) 貴機関の相談を受けた中でギャンブル等が関係する相談事案がございましたか。実績ありの場合は、以下の欄にも記載ください。※問題・要因等が重複している場合は、複数回答可

- 相談機関で相談実績「あり」と回答した機関は、約19%であった。
- 相談実件数は、男性464人、女性145人、合計609人である。男女比では、男性が女性の約3倍である。



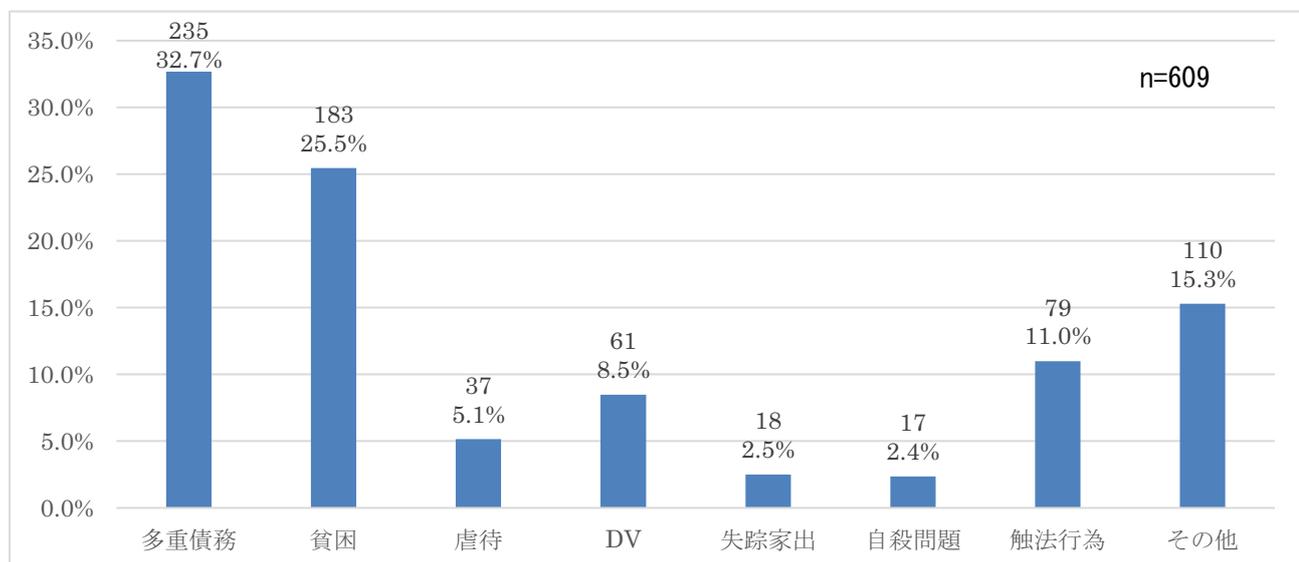
要因等		問題	実件数		多重債務		貧困		虐待	
			男	女	男	女	男	女	男	女
① ギャンブル等問題 相談件数			464人	145人	189人	46人	136人	47人	29人	8人
内容 ※複数回答可	相談してきた者	本人(当事者)	220人	37人	98人	12人	73人	18人	3人	2人
		家族	207人	94人	93人	31人	51人	24人	25人	5人
		その他()	57人	19人	10人	4人	14人	6人	3人	2人
	要因のギャンブル等	競馬	61人	7人	34人	2人	18人	1人	9人	0人
		うち、ネット購入者	8人	0人	4人	0人	2人	0人	0人	0人
		競輪	6人	0人	0人	0人	4人	0人	2人	0人
		うち、ネット購入者	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		オートレース	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち、ネット購入者	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		モーターボート	6人	0人	3人	0人	2人	0人	5人	0人
		うち、ネット購入者	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		パチンコ・パチスロ	309人	90人	134人	32人	108人	38人	23人	6人
その他()	126人	48人	32人	11人	19人	8人	5人	2人		

要因等		問題	DV		失踪家出		自殺問題		触法行為		その他	
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
①ギャンブル等問題 相談件数			45人	16人	17人	1人	16人	1人	68人	11人	80人	30人
内容 ※複数回答可	相談して きた者	本人 (当事者)	0人	10人	11人	0人	11人	1人	47人	3人	25人	3人
		家族	37人	7人	4人	1人	3人	0人	21人	6人	30人	22人
		その他 ()	9人	0人	1人	0人	1人	0人	5人	4人	26人	7人
	要因のギャンブル等	競馬	10人	1人	0人	0人	2人	0人	17人	1人	4人	2人
		うち、 ネット 購入者	0人	0人	0人	0人	1人	0人	1人	0人	2人	0人
		競輪	2人	0人	0人	0人	0人	0人	4人	0人	0人	0人
		うち、 ネット 購入者	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		オート レース	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち、 ネット 購入者	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		モーター ボート	6人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち、 ネット 購入者	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		パチンコ ・ パチスロ	24人	14人	15人	2人	13人	1人	48人	7人	26人	7人
		その他 ()	21人	2人	1人	0人	2人	0人	12人	3人	44人	21人

ギャンブル等問題相談件数

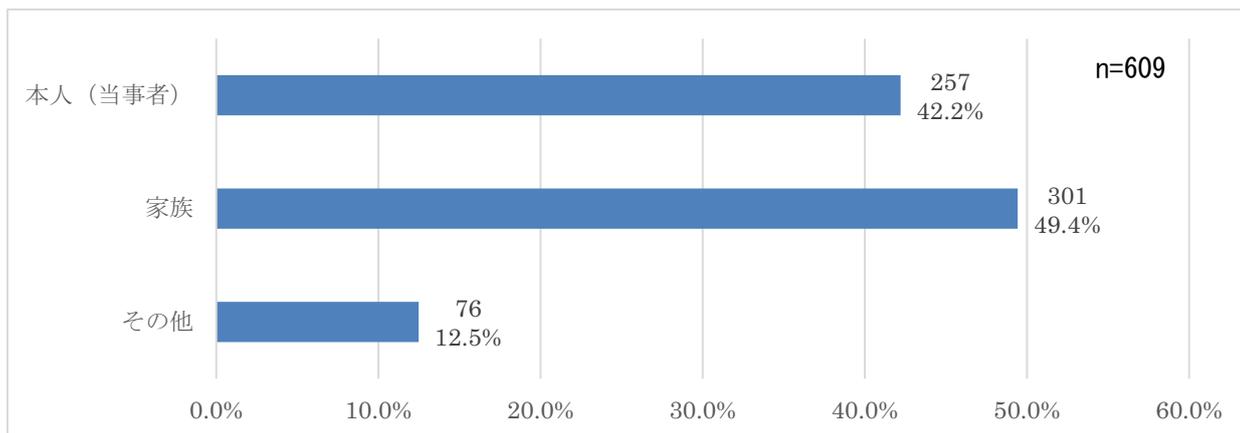
○ ギャンブル等問題相談件数については、多重債務問題が相談件数の約3割を占めており、次に貧困、その他となっている。

なお、その他の主なものとしては、多重債務ではない1カ所からの借金や家族関係の悪化となっている。



相談してきた者（内訳）

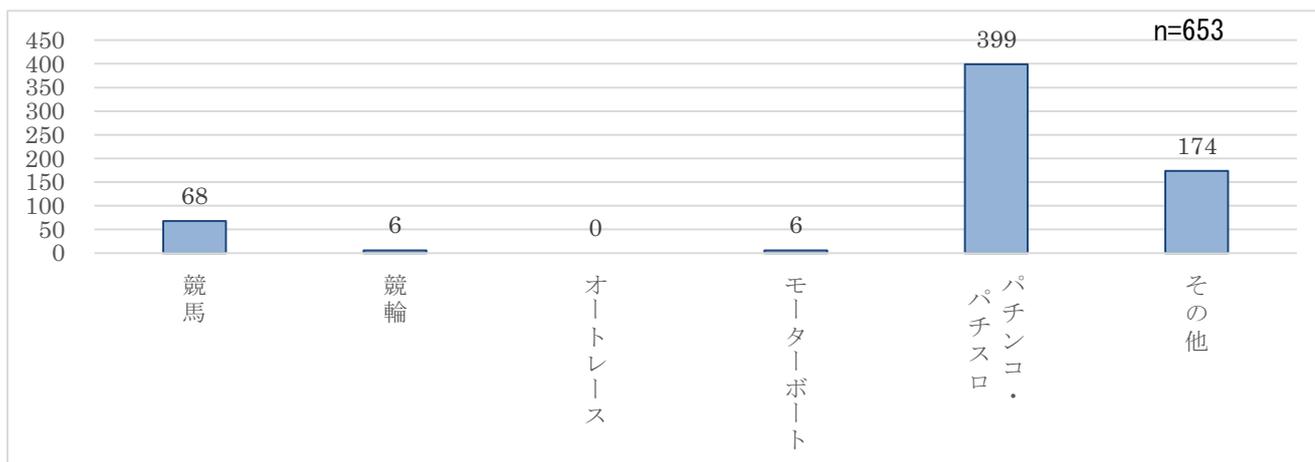
○ 相談してきた者は、家族が301人で約5割を占めており、本人（当事者）は257人で約4割である。



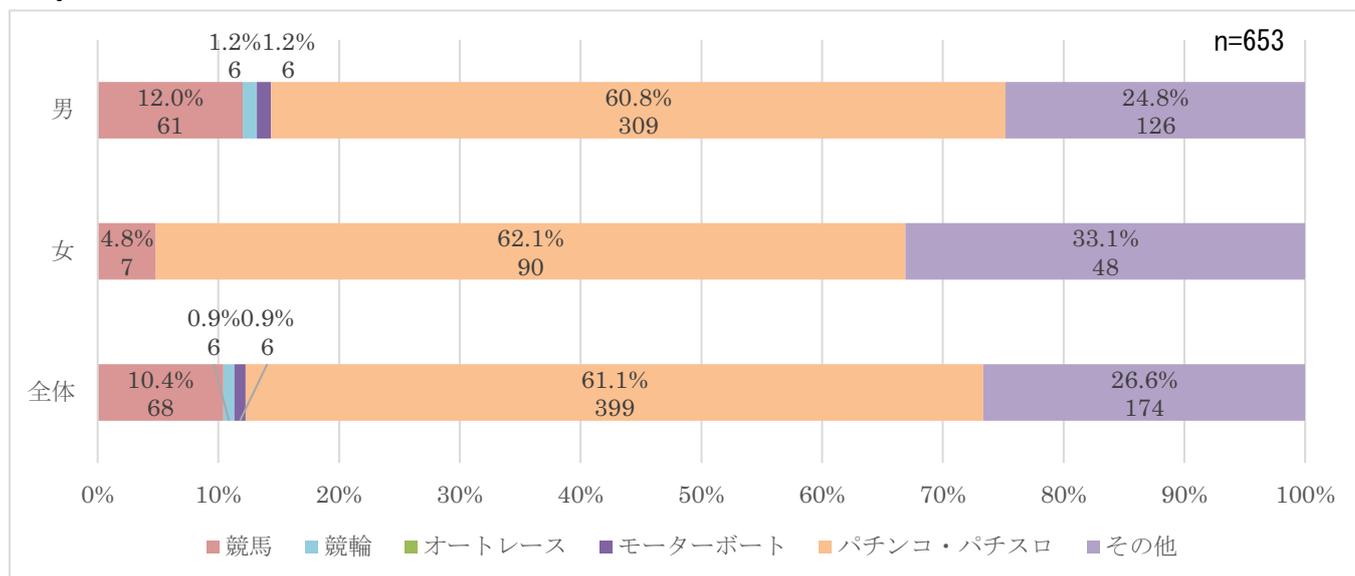
ギャンブル等の種別（内訳）

○ ギャンブル等の種別に関し、回答のあった相談機関では、パチンコ・パチスロが全体の約6割を占め、競馬が約1割となっている。

○ ネット購入者は、競馬で8件あった。



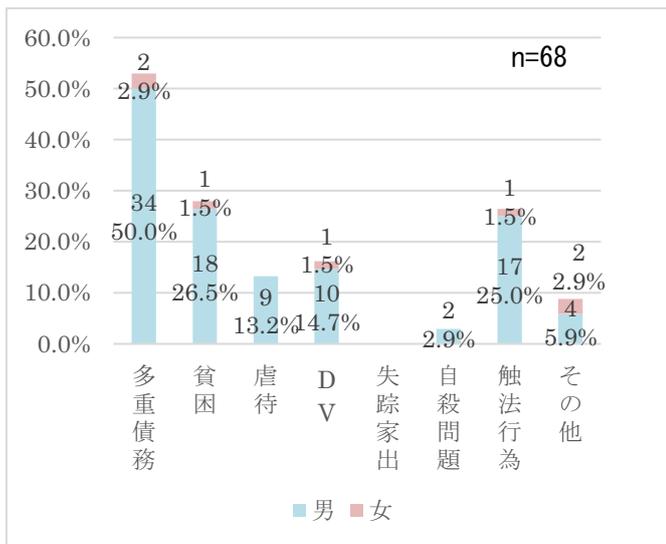
※その他は「ギャンブル等の種別を聞き取っていないこと」、「不明」、「ネットゲームへの課金」といったものがあった。



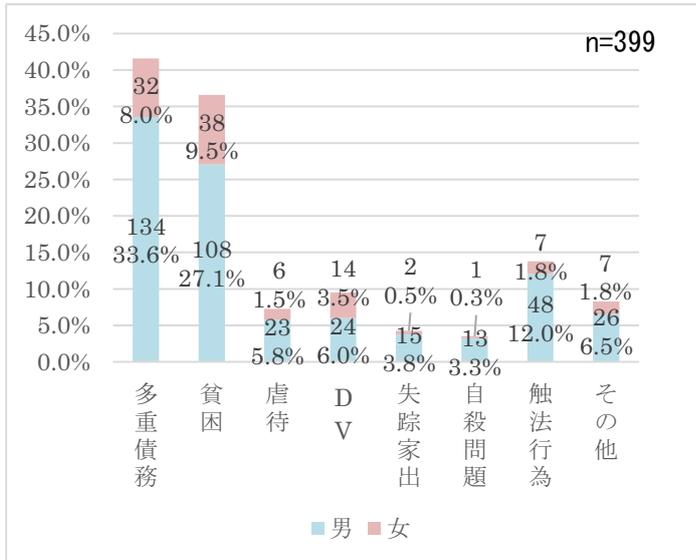
ギャンブル等の種別ごとの問題について

○ ギャンブル等の種別ごとの問題については、競馬では、多重債務が53%と最も多い。パチンコ・パチスロでは、多重債務が多く、次いで貧困になっている。

【競馬】



【パチンコ・パチスロ】



年代等	問題	実件数		多重債務		貧困		虐待	
		男	女	男	女	男	女	男	女
②	ギャンブル等問題を起こしている当事者の人数	464人	145人	189人	46人	136人	47人	29人	8人
内訳	20歳未満	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち、ネット購入者	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	20代	56人	7人	26人	2人	20人	5人	3人	0人
	うち、ネット購入者	3人	0人	1人	0人	1人	0人	0人	0人
	30代	98人	10人	50人	6人	31人	1人	8人	0人
	うち、ネット購入者	2人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	40代	103人	28人	40人	8人	28人	13人	9人	5人
	うち、ネット購入者	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	50代	53人	11人	26人	8人	20人	3人	2人	0人
	うち、ネット購入者	2人	0人	2人	0人	1人	0人	0人	0人
	60代	35人	6人	15人	3人	10人	3人	4人	1人
	うち、ネット購入者	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	70歳以上	23人	12人	8人	3人	12人	3人	0人	1人
	うち、ネット購入者	1人	0人	1人	0人	0人	0人	0人	0人
不詳	96人	71人	24人	16人	15人	19人	3人	1人	
うち、ネット購入者	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	

年代等	問題	DV		失踪家出		自殺問題		触法行為		その他()	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
	②ギャンブル等問題を起こしている当事者の人数	45人	16人	17人	1人	16人	1人	68人	11人	80人	30人
内 訳	20歳未満	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち、ネット購入者	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	20代	7人	0人	6人	0人	7人	0人	9人	0人	9人	0人
	うち、ネット購入者	0人	0人	0人	0人	1人	0人	0人	0人	1人	0人
	30代	8人	0人	5人	0人	5人	0人	21人	2人	15人	0人
	うち、ネット購入者	0人	0人	0人	0人	0人	0人	1人	0人	1人	0人
	40代	13人	9人	2人	0人	3人	1人	18人	1人	11人	2人
	うち、ネット購入者	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	50代	2人	0人	1人	0人	1人	0人	8人	2人	3人	1人
	うち、ネット購入者	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	60代	7人	0人	1人	0人	0人	0人	3人	0人	1人	1人
	うち、ネット購入者	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	70歳以上	1人	1人	0人	0人	0人	0人	3人	1人	2人	2人
	うち、ネット購入者	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
不詳	7人	6人	2人	1人	0人	0人	6人	5人	39人	24人	
うち、ネット購入者	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	

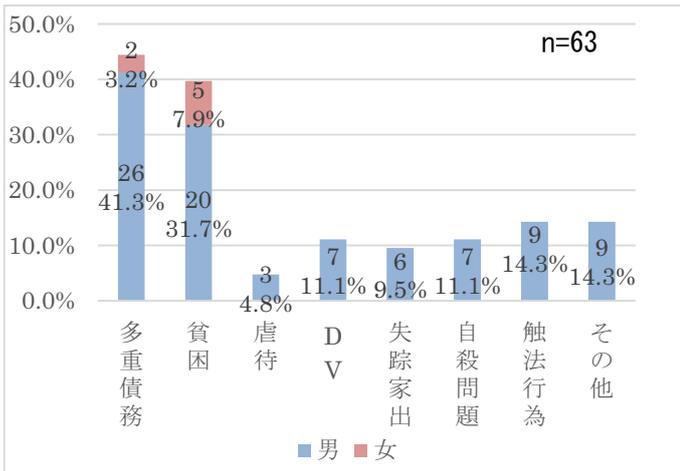
年代等について

○ ギャンブル等問題を起こしている当事者の年代については、男性では30～40代が多く、55%を占めている。女性では40代が多く、次いで70代となっている。

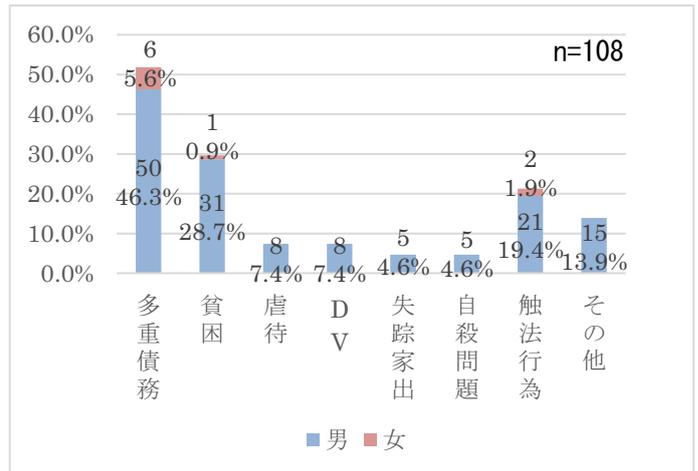


年代別問題について

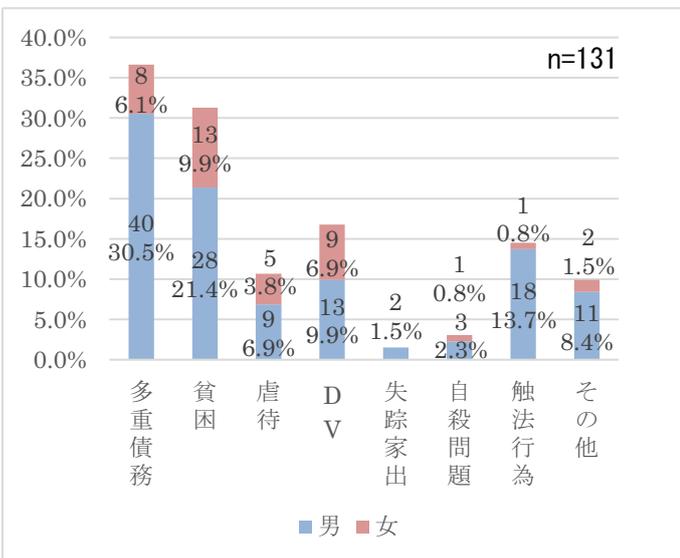
【20代】



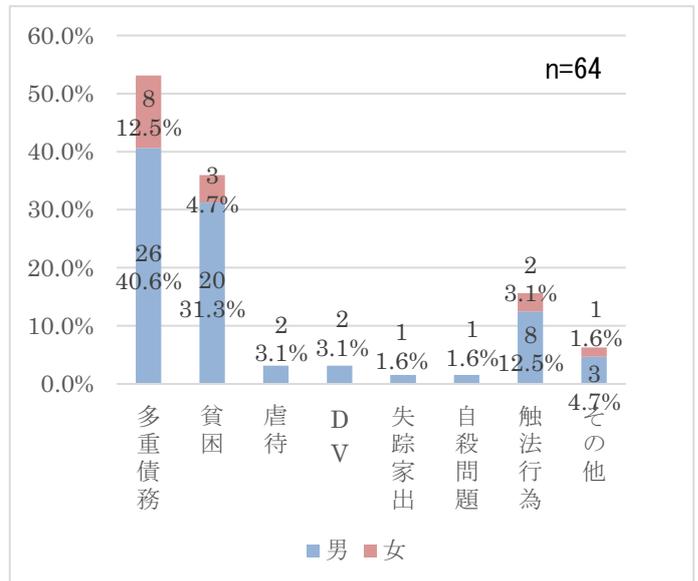
【30代】



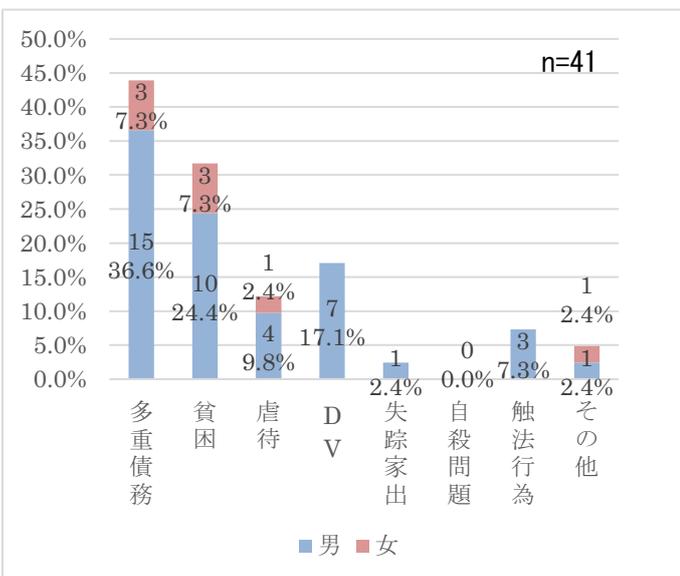
【40代】



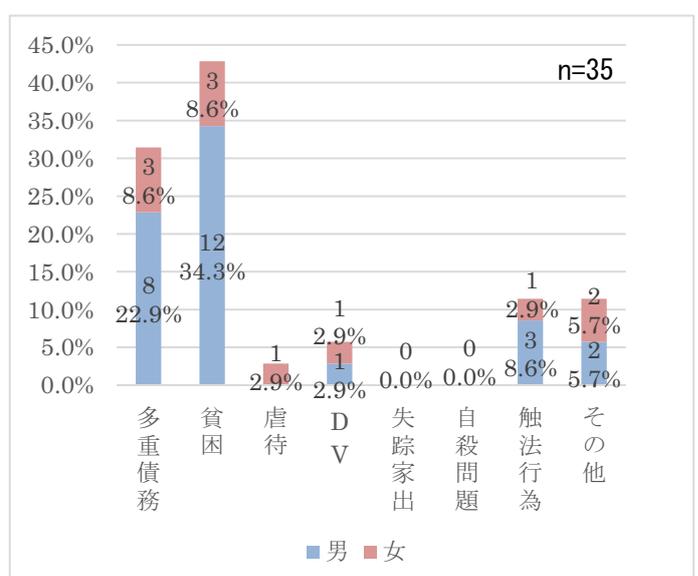
【50代】



【60代】

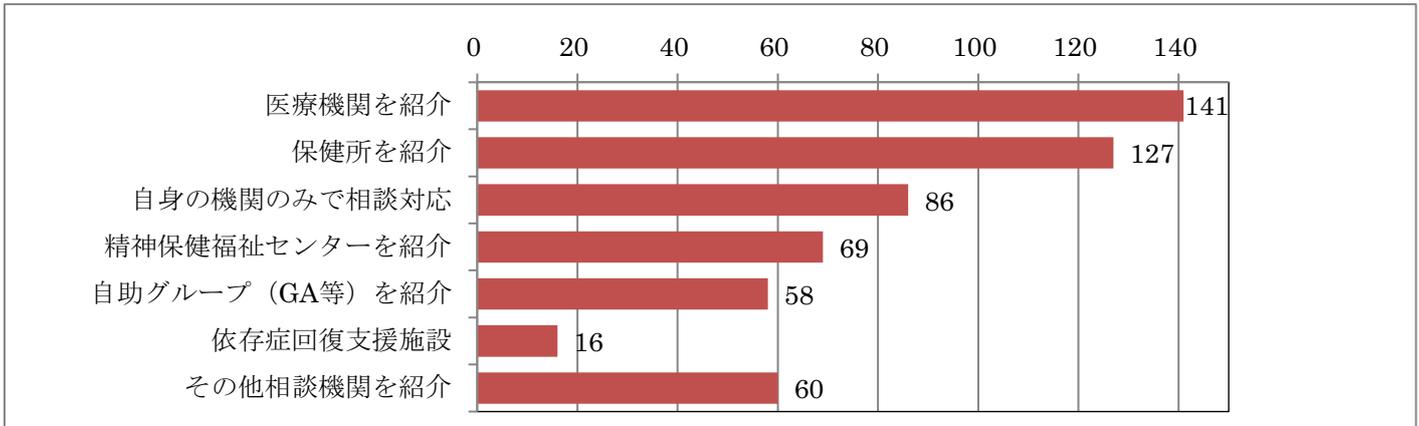


【70歳以上】



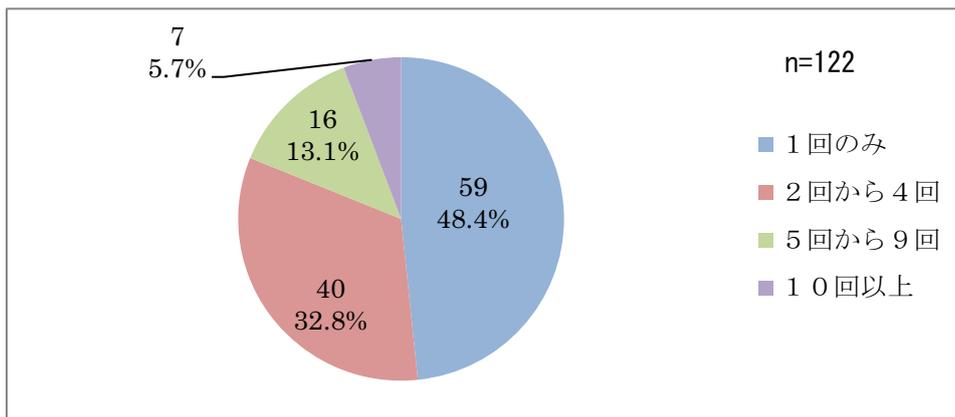
(2) 貴機関にて対応している相談のうち、ギャンブル等依存症が疑われる場合の主な対応について、該当する項目に○をつけてください（複数回答可）。

- ギャンブル等依存症が疑われる場合の主な対応については、「医療機関を紹介」が多く、次いで「保健所を紹介」となっている。
- 「その他」は、市町村相談窓口、法テラスなどとなっている。



(3) 一年間（平成30年4月～平成31年3月）で同一の案件で繰り返し相談されたものはありましたか。繰り返しの相談が最も多い回数に1つ○をつけてください。

- 繰り返しの相談に関しては、1回みの回答が約半数を占めているが、2回以上も約半数あり、そのうち、10回以上の回答が5.7%となっており、同一案件で複数回、相談対応している。



2 ギャンブル等依存症が疑われる事案の相談にあたっての課題や困難なことがありましたら記載してください。

・主な意見

- ギャンブル等依存症の専門医療機関の情報がない。
- 本人のギャンブル等依存であるという自覚がない事で解決に結びつけづらい。病識がない。
- 本人に治療の意思がない場合の対応について苦慮している。
- GA、ギャマノン、治療可能な医療機関等の情報に触れる機会が少ない。
- 家族は抱え込みやすく相談へつながるまでに時間を要することが多い。 など

3 ギャンブル等依存症対策に関するご意見等がありましたら記載ください。

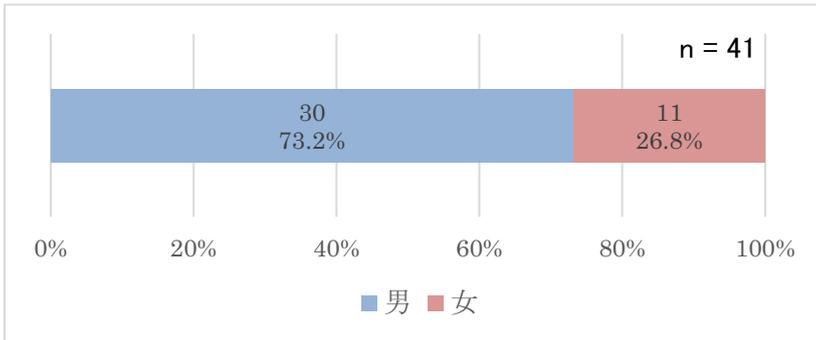
・主な意見

- ギャンブル等依存症の対応について学習する機会が少ないため、研修会があれば参加したい。
- 基礎的な相談対応研修や専門機関を知る機会があるとよい。
- ギャンブル等依存症を疾病・治療対象と捉えていない方が多いと感じる。一般・関係職員に対する啓蒙を継続して実施する必要がある。 など

(3) GA等(当事者)

1 あなたの性別を教えてください。

○ 回答があった方々は41名で、男性30人、女性11人である。



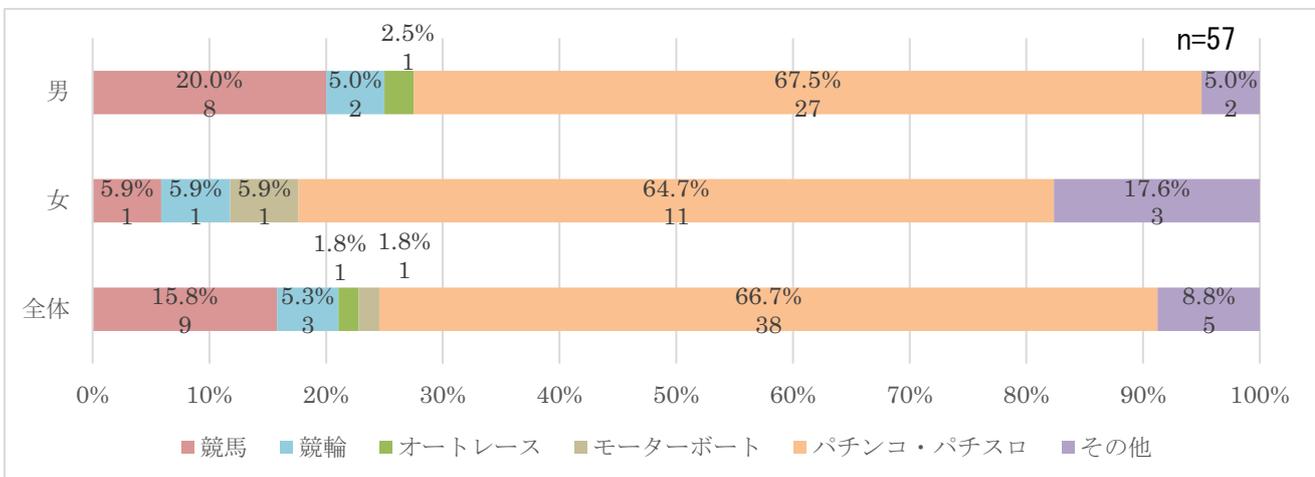
2 あなたの年齢について、該当するところに○をつけてください。

○ 当事者の年代については、男女とも50代が最も多く、全体では40～50代で6割強を占めている。



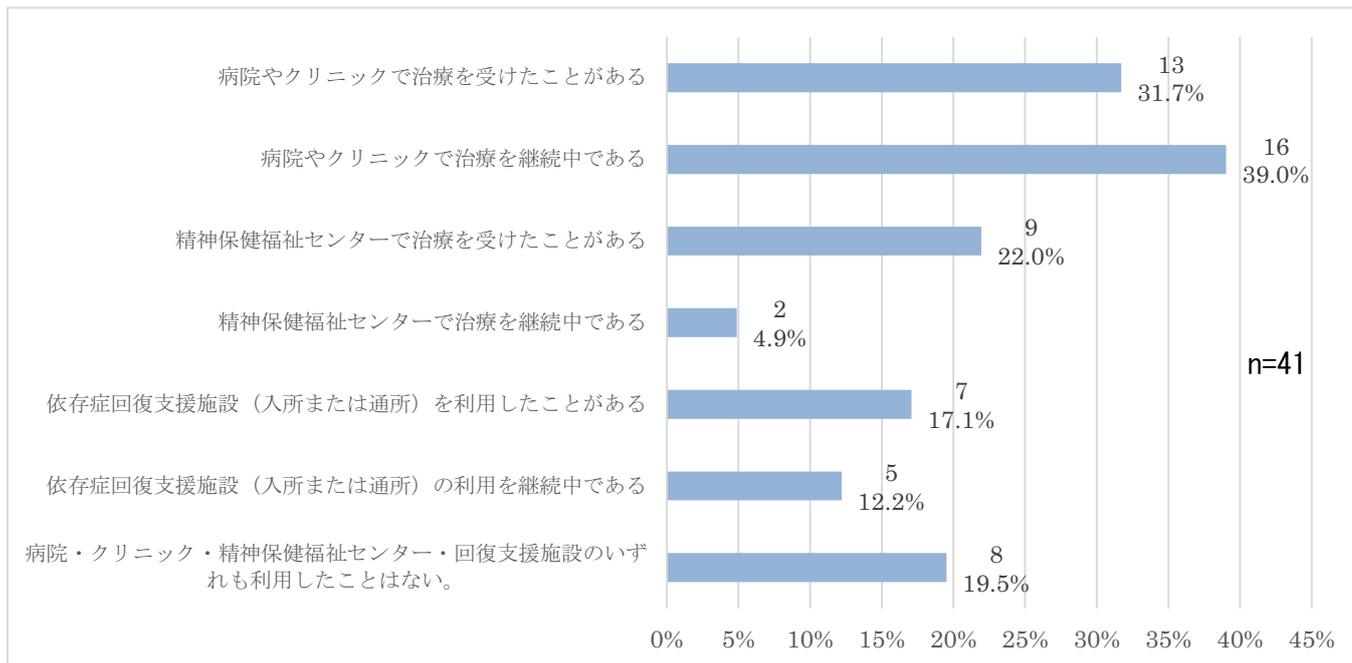
3 あなたがのめり込んだギャンブル等の種別について、該当するところに○をつけてください。 (複数回答可)

○ ギャンブル等の種別では、パチンコ・パチスロが男女ともに多く、全体の67%で、次いで競馬が16%となっている。



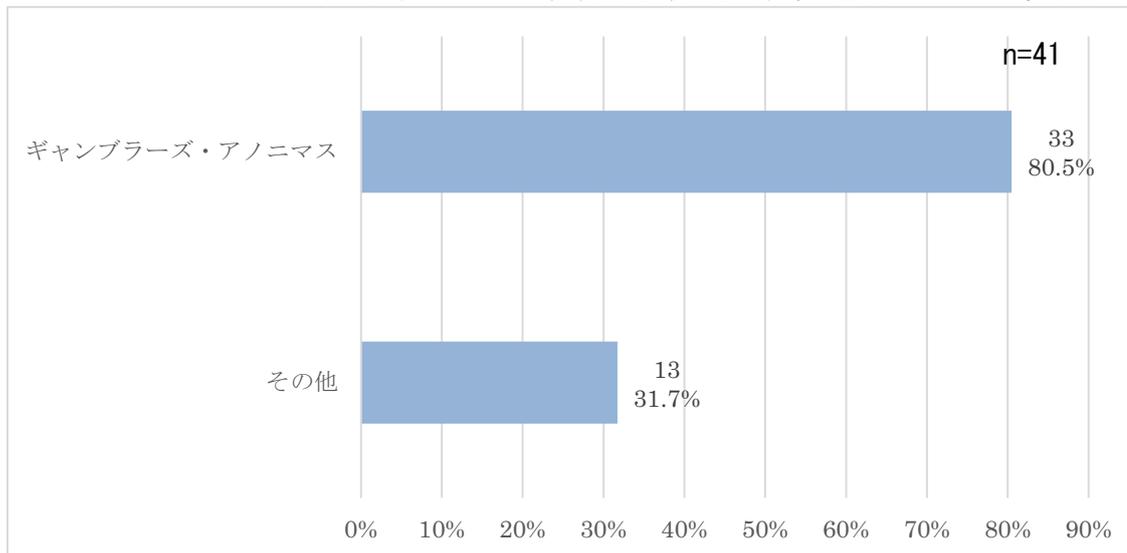
4 (1) あなたはギャンブル等の問題で、治療機関や回復施設を利用したことがありますか。
(複数回答可)

○ 治療機関等に一度でも繋がったことがある方は全体の約8割を占めており、現在も治療または利用を継続している方は、23人となっている。



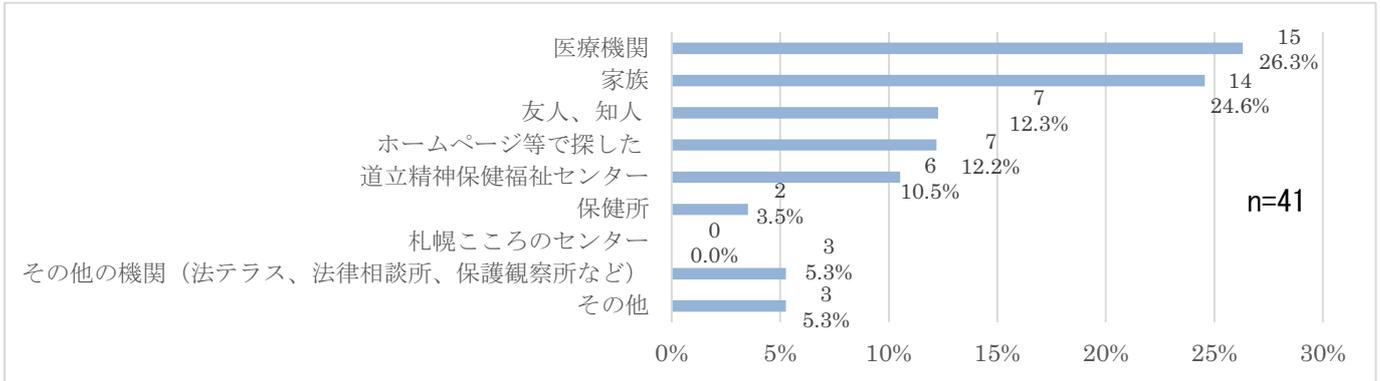
4 (2) あなたが利用しているGA等の自助グループは、どのようなグループですか？
(複数回答可)

○ 利用している自助グループは、約8割がGA等で、その他としては、道立精神保健福祉センターや病院で実施しているグループミーティング、アルコール依存症もある方で、その自助グループに参加している状況となっている。



4 (3) GA等のグループにつながったきっかけについて、該当するところに○をつけてください。(複数回答可)

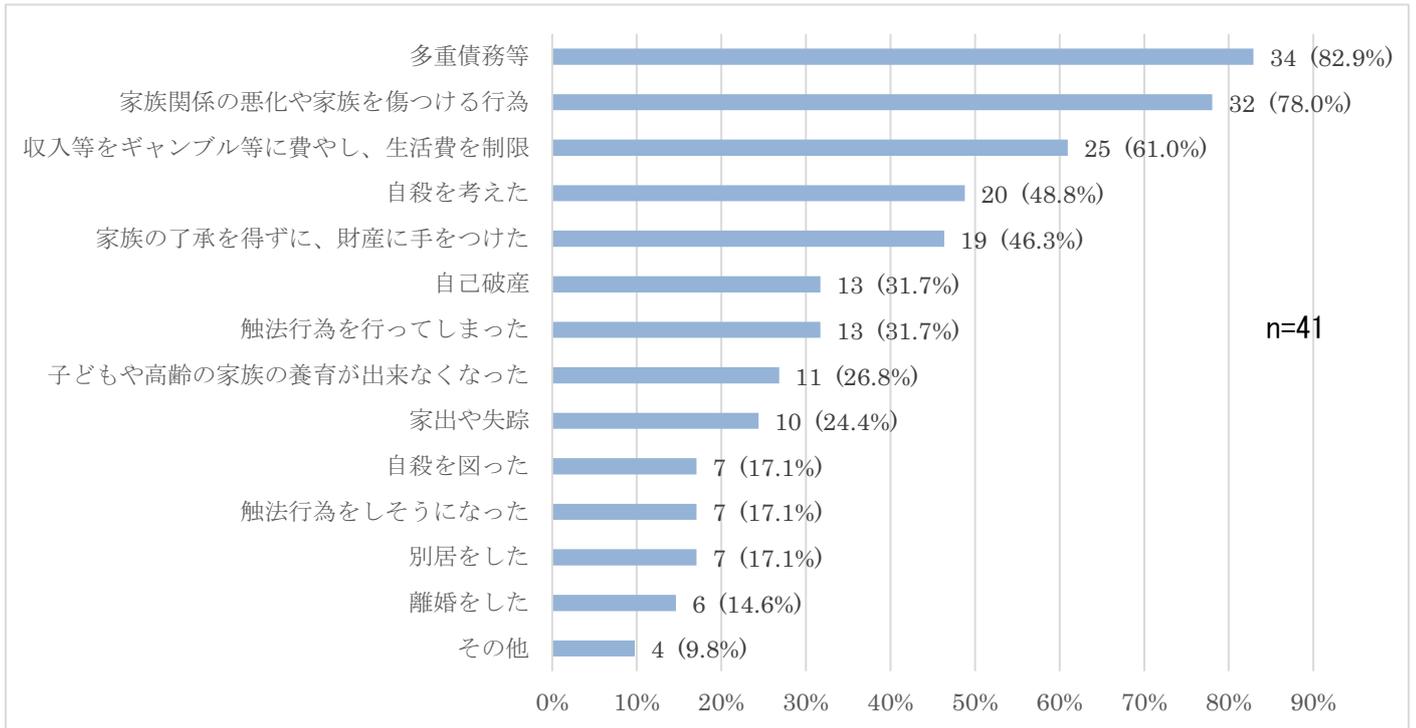
○ GA等に繋がったきっかけは、「医療機関からのすすめ」と「家族からのすすめ」がそれぞれ約25%となっており、次いで「友人、知人からのすすめ」、「ホームページ等で探した」の割合が高くなっている。



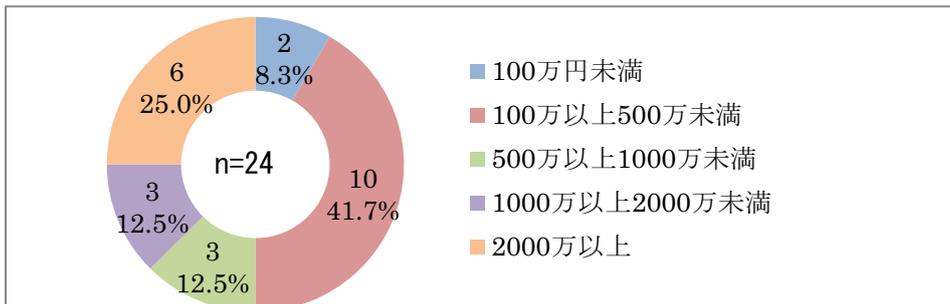
5 あなたがギャンブル等にのめり込むこむことにより、以下のようなことがありましたか？該当するところに○をつけてください。【複数回答可】

○ ギャンブル等問題については、「多重債務等」、「家族関係の悪化」それぞれが約8割を占めており、次いで「収入等をギャンブル等に費やし、生活費を制限」が約6割、「自殺を考えた」、「家族の了承を得ずに、財産に手をつけた」がそれぞれ約5割を占めている。

また、借金総額は、5割が500万円以上の借金をしており、最高額は1億1,350万円となっている。



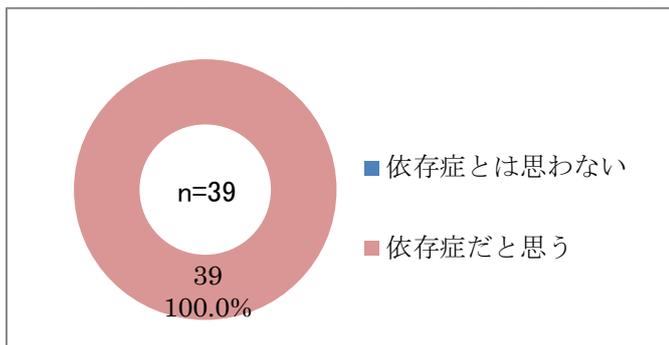
【借金総額】



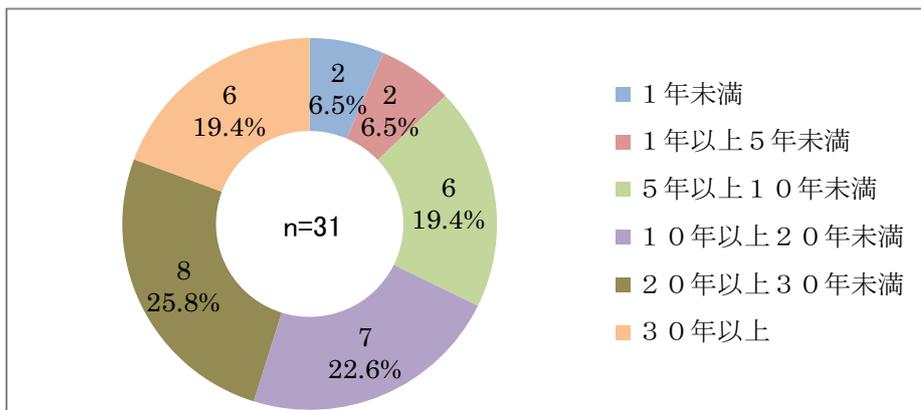
回答項目	回答数
高額の借金や多重債務をつくってしまった（多重債務等）	【34】
<これまでの借金の総額（概数）： 円>	
自己破産をした	【13】
自己破産以外の債務整理を行った	【15】
→どのような方法で債務整理を行いましたか？	
個人再生	【2】
任意整理	【9】
専門家に依頼し対応	【3】
土地、家屋を処分した	【3】
家族の了承を得ずに、財産（お金）に手をつけた	【19】
→具体的にはどのようなことですか？	
保険や預貯金の解約・とりくずし	【14】
退職金の前借り	【2】
その他<家にあるお金を盗んだ、親に自己破産させた等>	【8】
収入（または貯蓄）をギャンブル等に費やしたため、生活費を制限せざるを得なかった	【25】
→このような状況に陥り、公的な支援を受けることになりましたか？	
受けることになった	【11】
受けなかった	【13】
→「受けることになった」と回答した方のみお答え下さい。	
どのような公的支援を受けましたか？該当するところに○をつけて下さい。	
生活保護	【9】
生活福祉資金貸付制度	【1】
その他<一時保護施設>	【1】
家族関係が悪化した、家族を傷つける行為を行った	【32】
→該当するものに○をつけて下さい（複数回答可）	
虚言・うそ	【32】
暴言	【12】
暴力	【4】
その他<金銭を工面するために家族にもギャンブルや借金等をさせた等>	【6】
子どもや高齢の家族を養育出来なくなった	【11】
→その際に、利用した施設はありましたか？	
ない	【10】
ある	【1】
→「ある」と答えた方におたずねします。どのような施設を利用しましたか？	
児童相談所の一時保護施設	【0】
女性援助センター、一時保護をする民間シェルター	【0】
高齢者関連施設	【0】
その他< >	【0】
家出や失踪をしたことがある	【10】
自殺を考えた	【20】
自殺を図った	【7】
触法行為（横領、着服、詐欺、窃盗）をしそうになった	【7】
触法行為（横領、着服、詐欺、窃盗）を行ってしまった	【13】
別居をした	【7】
離婚をした	【6】
その他<ギャンブル等以外はひきこもりのような生活、親権裁判等>	【4】

6 あなたは自分のギャンブル問題を、「ギャンブル等依存症」という病気であると思いますか？

- 39人全員が「ギャンブル等依存症」という病識がある。
 また、ギャンブル等依存症という病気と思うまでの期間は、約7割が10年以上を要している。



【ギャンブル等を始めてからギャンブル等依存症という病気と思うまでの期間】



→そう思うようになったきっかけ

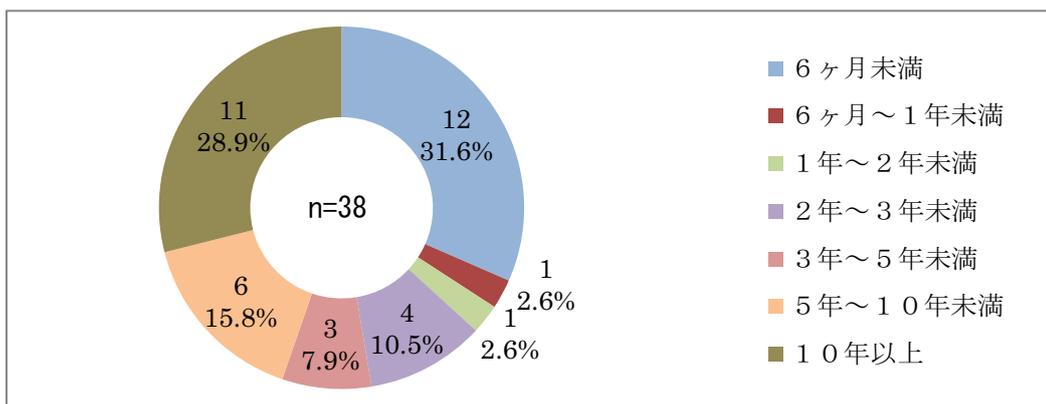
・主なきっかけ

- ギャンブル等に対して自分を自分でコントロール出来なくなったため。
- GA等に参加したため。
- インターネットで病名を知ったため
- 医師の診断で言われたため。

など

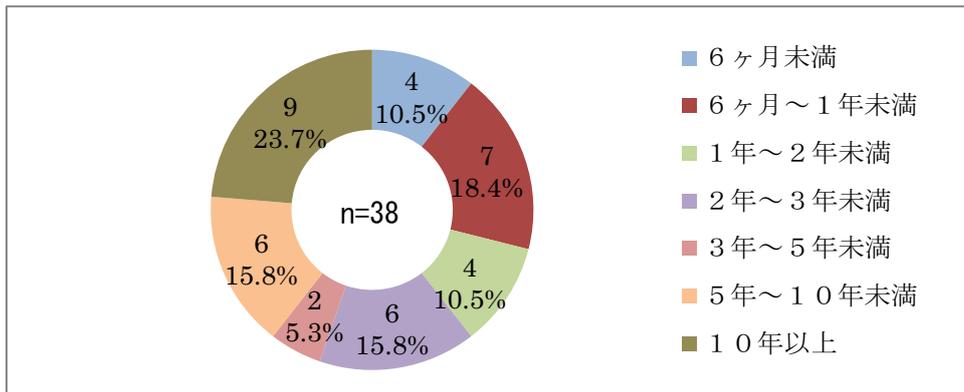
7 あなたがギャンブル問題に気づいてからGA等につながるまで、どのくらいの期間がありましたか？ 該当するところに○をつけてください。(複数のグループを利用している場合は、最初に利用したものについてお書きください)

- GA等に繋がる期間は、6ヶ月未満が約3割であるが、5年以上の割合が4割を超えており、GA等に繋がるまで一定期間がある状況となっている。



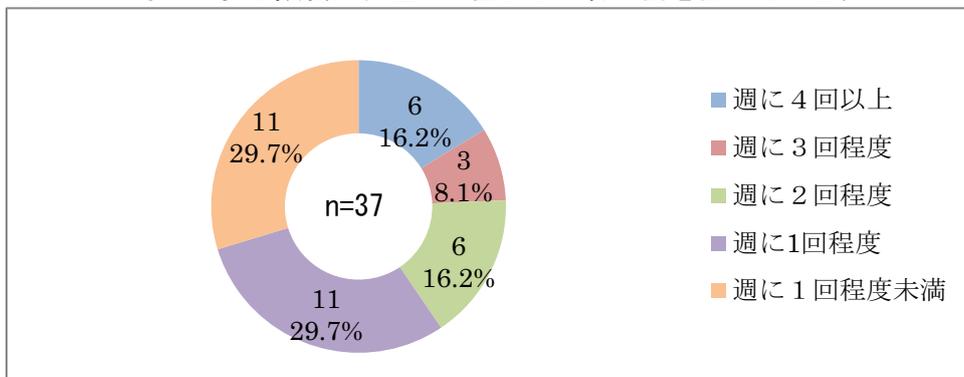
8 あなたがGA等に通い始めてどのくらいの期間になりますか？該当するところに○をつけてください。(複数のグループを利用している場合は、期間の長いほうをお書きください)

○ GA等に通い始めてからの期間は、「10年以上」が9人と最も多く、次に「6ヶ月～1年未満」の割合が多くなっている。



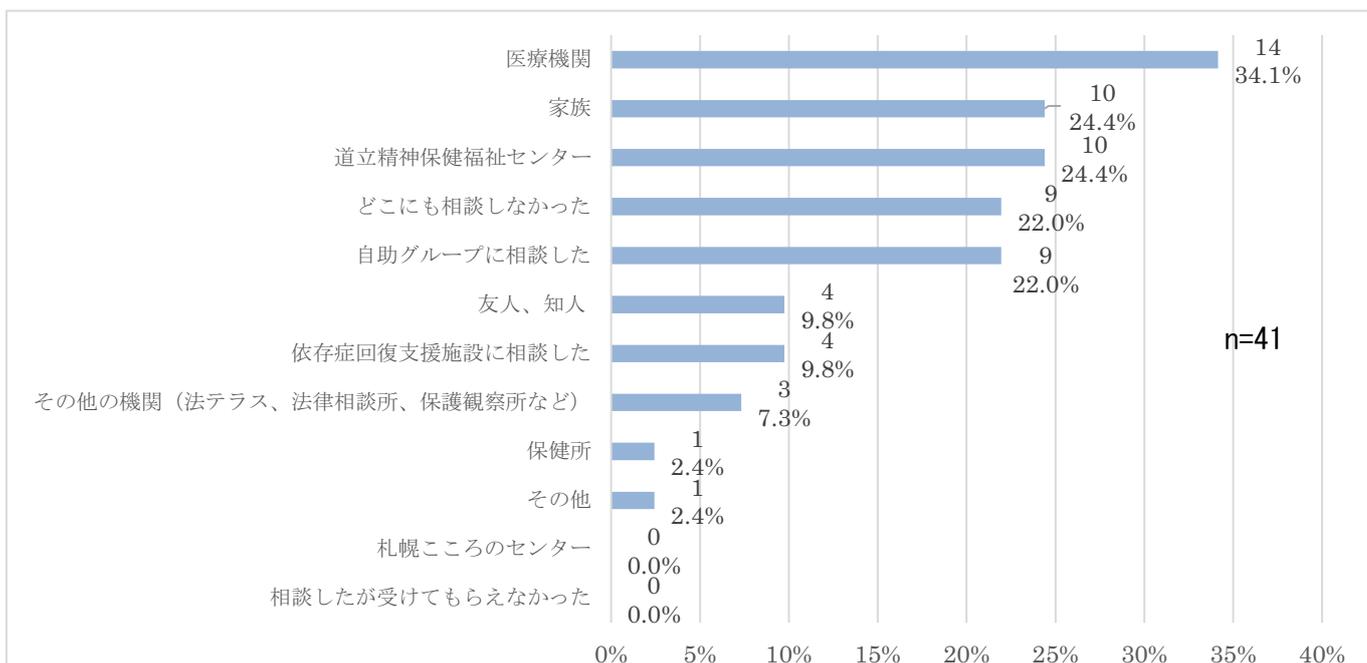
9 あなたがGA等に参加している頻度はどのくらいですか？該当するところに○をつけてください。(複数のグループを利用している場合は、合計の回数をお書きください)

○ GA等への参加頻度は、週に1回以下が約6割を占めている。



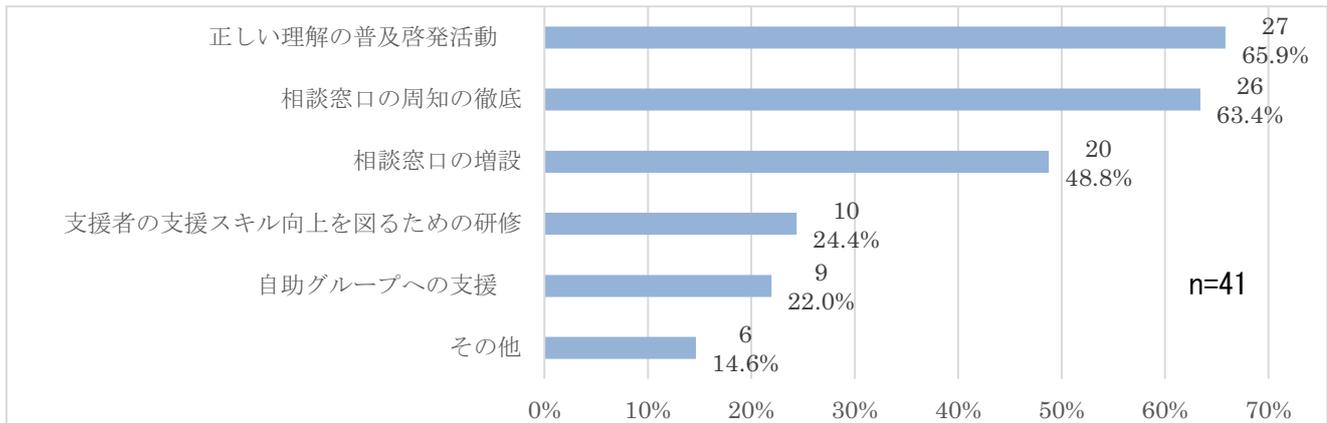
10 あなたが、自分のギャンブル問題に気づいてから、どこかに相談しましたか？該当するところに○をつけて下さい。【複数回答可】

○ 相談先は「医療機関」が約3割と最も多く、次いで「家族」、「道立精神保健福祉センター」が同数となっている。



1 1 行政に、より一層取り組んで欲しいことについて、該当するところに○をつけてください。
(複数回答可)

○ 行政に取り組んで欲しいことについては、「正しい理解の普及啓発」、「相談窓口の周知の徹底」の割合が高く、ともに6割を超えている。



1 2 ギャンブル等依存症対策に関するご意見等がありましたら記載してください

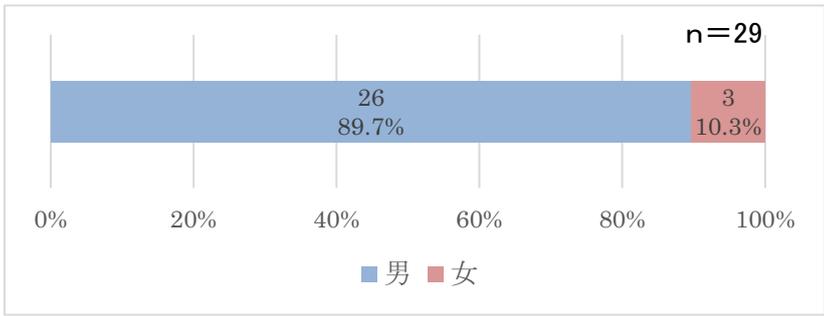
・主な意見

- 大きな病院ほどチラシやポスターを貼ってもらえず、門前払いされてしまう。精神科医の集まり等の機会にギャンブル等依存症のこと、自助グループのことを正しく理解してもらい、普及啓発につなげてもらいたい。
- ギャンブルもアルコールも「法律で禁止されていない」という気易さから始まることが多いと感じるので、たばこのパッケージのような注意喚起させるポスターなどをギャンブルの場、アルコール売場に貼るべき。
- 国として対策をして、教育をきちんとしてしっかり対応できる人となってほしい。
- もっとGA等が増えて欲しい。
- 全国、全道の自助活動の官庁の助成金を要望する。 など

(4) ギャマノン等 (家族等)

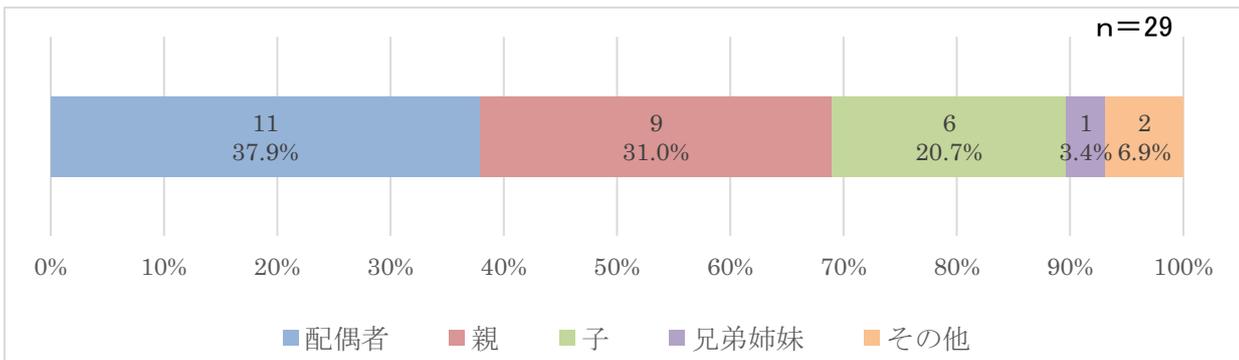
1 依存症のご本人のことについてお尋ねします。ご本人の性別を教えてください。

○ 回答のあった29人の内、ご本人の男女比は、男性26人、女性3人となっている。



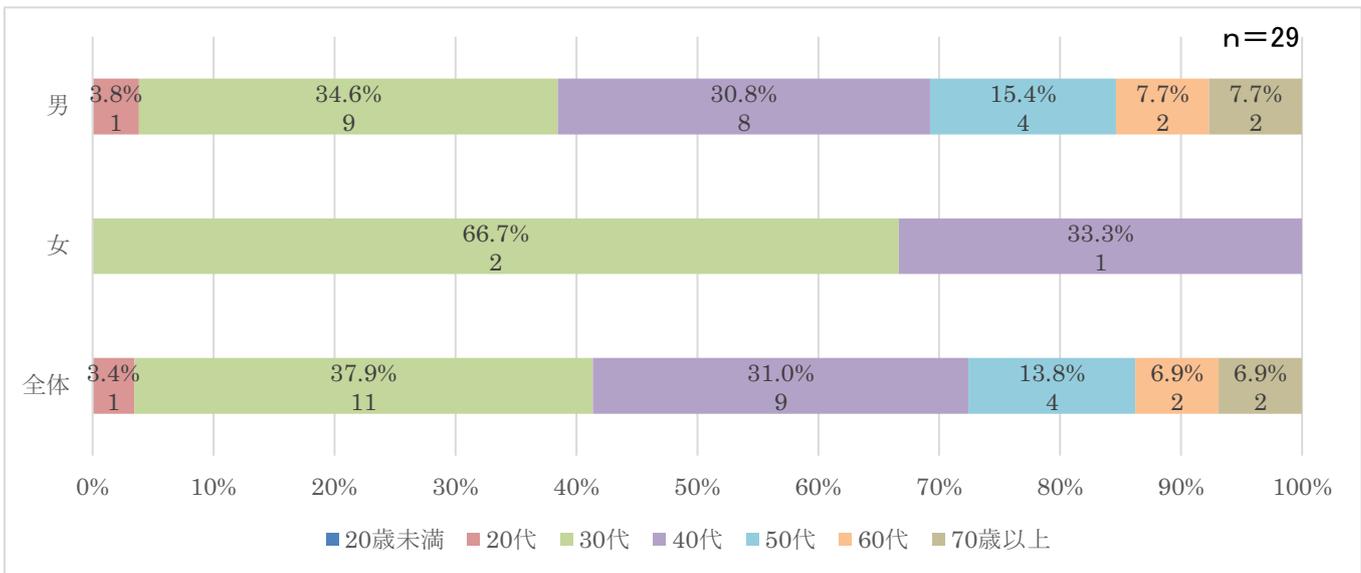
2 ご本人とあなたとの関係について、該当するところに○をつけてください。

○ ご本人との関係については、配偶者が4割近くと一番多く、次いで親、子の順となっている。



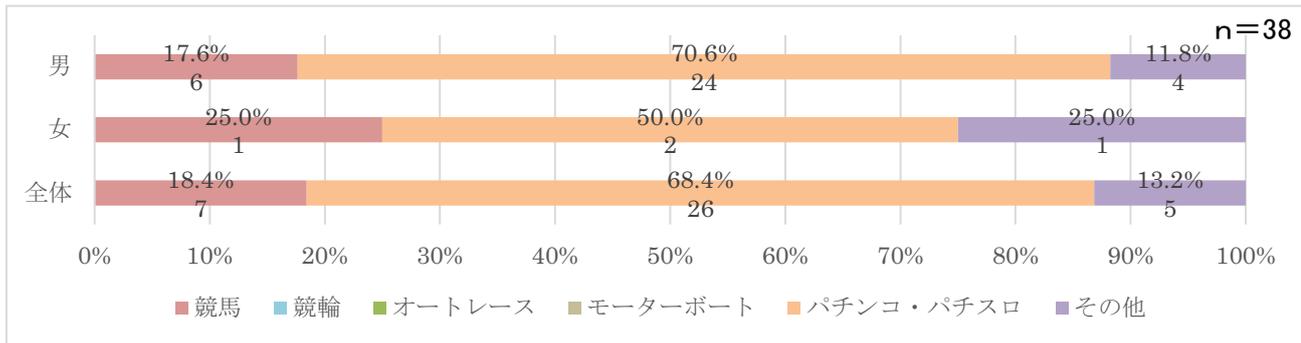
3 ご本人の年齢について、該当するところに○をつけてください。

○ ご本人の年齢については、男女ともに30～40代が多く、男性においては、約6割となっている。



4 ご本人がのめり込んだギャンブル等の種別について、該当するところに○をつけてください。
(複数回答可)

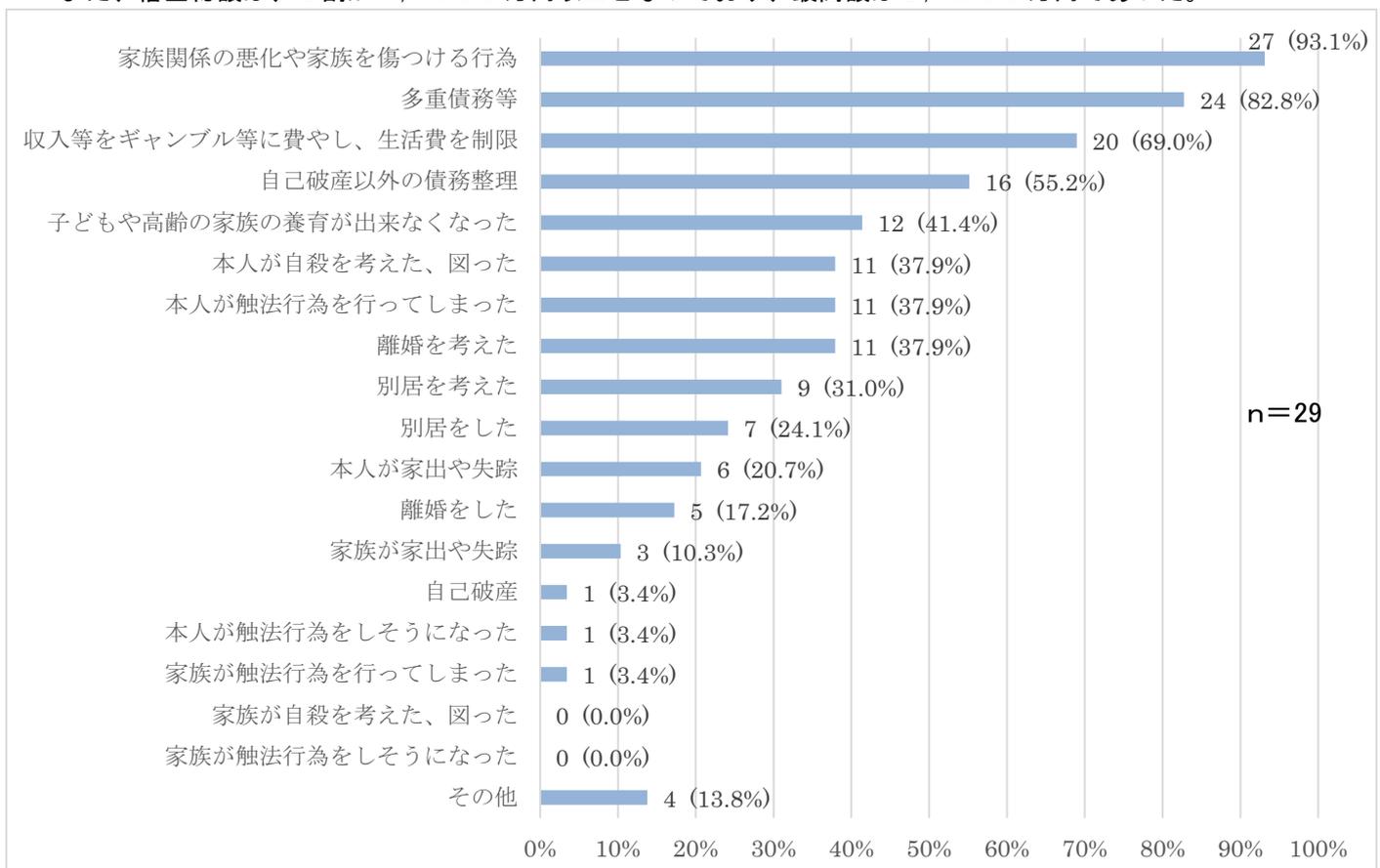
○ ギャンブル等の種別については、パチンコ・パチスロが全体の約7割を占め、競馬が約2割となっている。



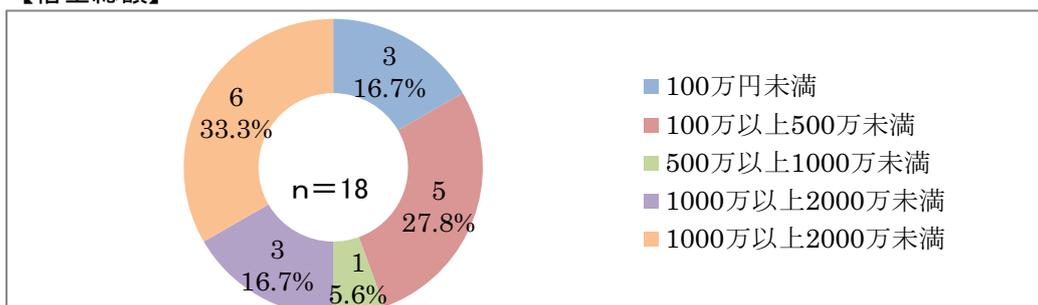
5 ご本人がギャンブル等にのめり込むことにより、以下のようなことがありましたか？
該当するところに○をつけてください。(複数回答可)

○ ギャンブル等にのめり込むことにより起きた問題については、回答のあった29件のうち、「家族関係の悪化や家族を傷つける行為」との回答が9割以上となっており、次いで「多重債務等」、「ギャンブル等により、生活費を制限せざるを得なかった」といった金銭問題となっている。

また、借金総額は、5割が1,000万円以上となっており、最高額は3,000万円であった。



【借金総額】



回答項目	回答数
() 高額の借金や多重債務をつくってしまった(多重債務等)	【24】
<これまでの借金の総額(概数): 円>	
自己破産をした	【1】
自己破産以外の債務整理を行った	【16】
→どのような方法で債務整理を行いましたか?	
個人再生	【3】
任意整理	【7】
専門家に依頼し対応	【8】
土地、家屋を処分した	【1】
家の財産(お金)に手をつけた	【15】
→具体的にはどのようなことですか?	
保険や預貯金の解約・とりくずし	【12】
退職金の前借り	【0】
その他<父母から借りる、財布の中から盗む等>	【6】
収入(または貯蓄)をギャンブル等に費やしたため、生活費を制限せざるを得なかった	【20】
→このような状況に陥り、公的な支援を受けることになりましたか?	
受けなかった	【20】
受けることになった	【0】
→「受けることになった」と回答した方のみお答え下さい。 どのような公的支援を受けましたか?該当するところに○をつけて下さい。	
生活保護・生活福祉資金貸付制度・その他< >	【0】
家族関係が悪化した、本人が家族を傷つける行為を行った	【27】
→要因として該当するものに○をつけて下さい(複数回答可)	
虚言・うそ	【27】
暴言	【11】
暴力	【4】
その他<大学を退学、コミュニケーションを取らなくなった、質屋通い等>	【5】
子どもや高齢の家族を養育出来なくなった	【12】
→その際に、利用した施設はありましたか?	
ない	【11】
ある	【0】
→「ある」と答えた方におたずねします。どのような施設を利用しましたか?	
児童相談所の一時保護施設・女性援助センター、一時保護をする民間シェルター・ 高齢者関連施設・その他< >	【0】
本人が家出や失踪をしたことがある	【6】
家族が家出や失踪をしたことがある	【3】
本人が自殺を考えた、または図った	【11】
家族が自殺を考えた、または図った	【0】
本人が触法行為(横領、着服、詐欺、窃盗)をしそうになった	【1】
家族が触法行為(横領、着服、詐欺、窃盗)をしそうになった	【0】
本人が触法行為(横領、着服、詐欺、窃盗)を行ってしまった	【11】
家族が触法行為(横領、着服、詐欺、窃盗)を行ってしまった	【1】
別居を考えた	【9】
別居をした	【7】
離婚を考えた	【11】
離婚をした	【5】
その他<回復施設に入れた、単身赴任で離れた等>	【4】

6 ご本人のギャンブル問題により、家庭内にどのような影響（生活上の支障など）をきたしたのか、差し支えなければ、記載をお願いします

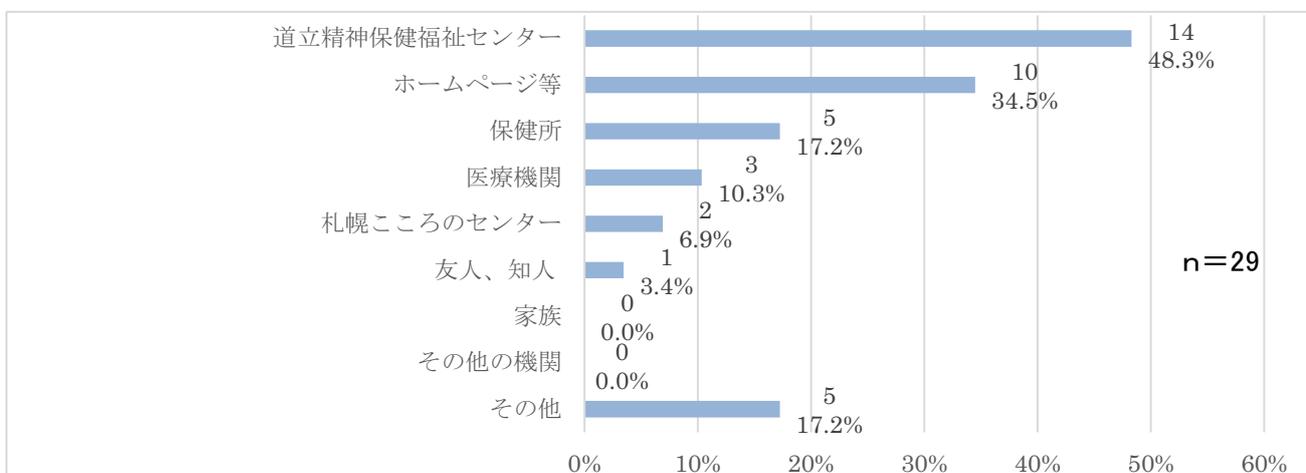
・主な意見

- 家の中でも現金、預金通帳、お金に換えられそうな物を目のつくところに置かず、常に注意するようになった。
- 家庭の中に泥棒がいる様な感じになり、日常生活の中に常に緊張感を伴い、心が安まる時がなかった。
- 家庭内での喧嘩が増えた。
- 心身に異常をきたすようになった。
- 経済的、精神的な害や不安、子どもたちも生きづらさを感じている。 など

7 あなたがギャンブル等につながったきっかけについて、該当するところに○をつけてください。（複数回答可）

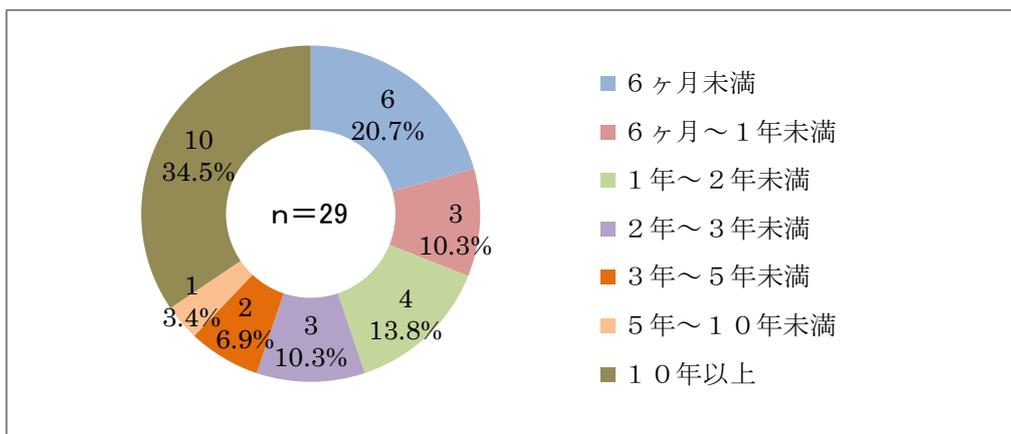
- ギャンブル等につながったきっかけについては、「道立精神保健福祉センター」が最も多く、約5割となっており、次いで「ホームページ等」、「保健所」となっている。

なお、その他は、「本人がGA等に繋がり、そこからギャンブル等を紹介」や「保健所で家族会を開いてくれたため」など。



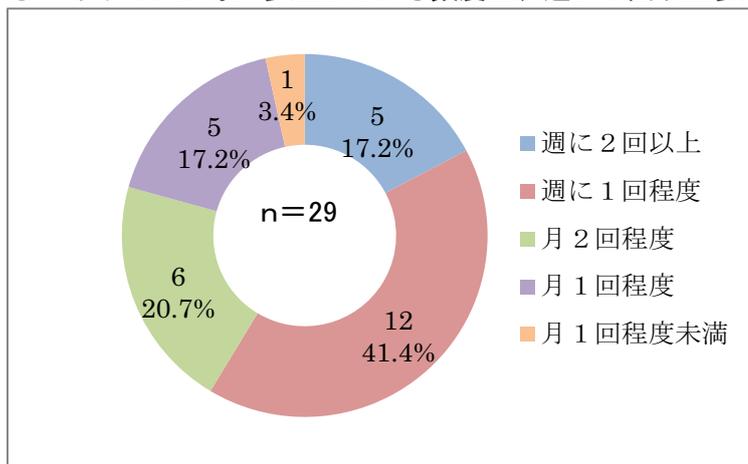
8 ご本人のギャンブル問題にあなたが悩まされてからギャンブル等につながるまで、どのくらいの期間がありましたか？ 該当するところに○をつけてください。

- ギャンブル等につながるまでの期間は、1年未満と回答した方が約3割を占める一方、10年以上も約3割となっている。



9 あなたがギャンブル等に参加している頻度はどのくらいですか？該当するところに○をつけてください。

○ ギャンブル等に参加している頻度は、週に1回以上参加するとの回答が全体の約6割を占めている。



10 あなたが、ご本人のギャンブル等に問題があると感じた時に、どこかに相談しましたか？該当するところに○をつけてください。（複数回答可）

○ 家族のギャンブル等に問題があると感じた時の相談先は、道立精神保健福祉センターが約5割と最も多く、次いで、家族、医療機関となっている。

